

互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉

泉わくわくプラン

令和8年度～12年度

第5期 泉区地域福祉保健計画



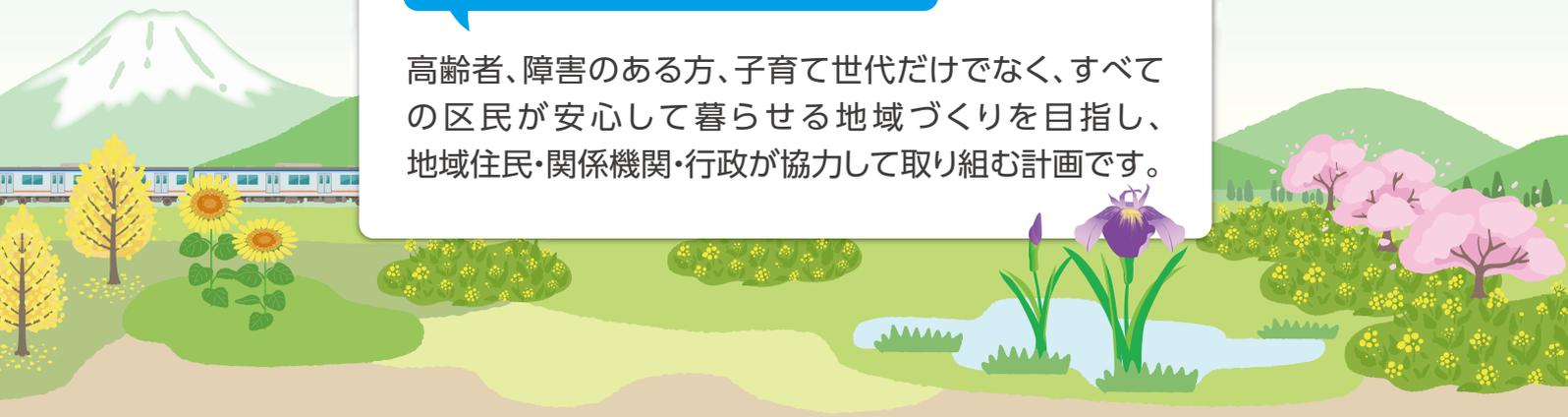
泉区マスコットキャラクター
いっずん



泉わくわくプラン推進キャラクター
いずちゃん

泉わくわくプランとは

高齢者、障害のある方、子育て世代だけでなく、すべての区民が安心して暮らせる地域づくりを目指し、地域住民・関係機関・行政が協力して取り組む計画です。



第5期泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）の策定にあたって



このたび、令和8年から令和12年度を計画年度とする「第5期泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）」を策定いたしました。計画策定にあたり、「泉区地域福祉保健計画策定・検討委員」の皆様をはじめ、区民意見募集などを通じて、多くの貴重な御意見・御提案をお寄せいただいた区民の皆様に心より感謝申し上げます。

本計画は、高齢者、障害のある方、子育て世代だけでなく、すべての区民が安心して暮らせる地域づくりを目指すものです。地域で暮らす区民の皆様が策定し取り組む「地区別計画」を、行政・関係機関等が取り組む「区計画」が支えながら両輪となって推進していくことで、基本理念である「互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉」を実現してまいります。

泉区では、多くの方が地域における助け合いの活動を支援いただいております。各地区で特色ある地域活動が盛んに行われております。一方で、少子高齢化に加え、近年の人口減少などの社会変化に伴い、地域の担い手の不足、一人ひとりの困りごとの多様化・複雑化など、地域福祉保健を取り巻く環境は変化し続けています。

地域課題の解決や持続可能な地域づくりに向け、より一層、行政と地域・関係機関の連携・協働、人と人のつながりや支え合いの取組が重要になってきています。

こうした取組を充実させるためには、区民の皆様の御協力が重要です。計画の推進を通じて、誰もが住みやすく魅力ある泉区を実現し、「住むなら泉区」と感じていただけるまちづくりを共に進めていきましょう。

横浜市泉区長 山口 賢



このたび、第5期泉区地域福祉保健計画を策定しました。地域の皆さまをはじめ、関係機関・団体の皆さまのご協力のもと、丁寧な検討を重ねて完成に至ったことに、心より感謝申し上げます。

泉区では、第1期から区全体と地区別の計画が連携し、地域課題の解決に向けた取組を進めてきました。第4期では、計画に親しみを持っていただけるよう愛称を導入し、住民の関心や参加の輪が広がりました。

第5期では、各地区での話し合いを重ね、地域の実情に即した内容となっており、より実効性の高い計画となっています。また、子どもたちが「泉わくわく応援隊」として地域活動に参加する取組は

第4期から継続しており、第5期では担い手の拡充に向けて、さらに力を入れていきます。

社会福祉協議会では、社会福祉施設や企業などが地域貢献活動を通じて、地域の困りごとの解決に取り組む「泉サポートプロジェクト」を推進しています。今後も多様な主体と地域をつなぐ役割を果たし、より連携が深まるよう取り組んでまいります。

泉区がさらに住みよいまちとなるよう、社会福祉協議会としても地域の絆を育み、誰もが安心して暮らせる地域づくりを着実に進めていきます。

社会福祉法人 横浜市泉区社会福祉協議会 会長
貝沼 貞夫



このたび、令和8年度から令和12年度までの5年間を計画期間とする「第5期泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）」が策定されました。2期計画より計画の策定・推進に携わってきましたが、5期計画ではこれまで積み重ねてきた基本理念に向けた取組を踏まえ、地域福祉に携わる多くの方々との議論し5年後を見据えた泉区に必要な取組が盛り込まれました。

本計画の策定にあたりましては、12地区の代表と27の関係機関の委員で構成される「泉区地域福祉保健推進協議会」において、計画の方向性について幅広くご議論いただきました。さらに、協議会委員の代表者による「泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会」を設置し、分科会として計画内容の協議を重ねてまいりました。また、各

地区においては、地区社会福祉協議会や連合自治会・町内会等の皆様を中心に、それぞれの地域の実情に即した地区別計画の策定に向けた話し合いを進めていただきました。加えて、区民の皆様からの意見募集では、小学生を含む多くの方々から貴重なご意見をいただき、計画に反映させていただきました。ここに、計画策定にご尽力いただきました全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

泉区では、「互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉」を基本理念に掲げ、三つの推進の柱を定めております。一つ目は「健やかに過ごせるまち」として、あらゆる世代の健康づくりや介護予防の推進、自分らしく過ごせる地域づくり、安心・安全なまちづくりに取り組めます。二つ目は「必要な支援が届くまち」として、困りごとを抱えた方が適切な支援につながる仕組みづくりや、関係機関の連携強化を進めてまいります。三つ目は「人と人、活動と活動がつながるまち」として、多様性を理解し交流する機会の創出、地域活動への参加促進、担い手の育成に努めてまいります。

近年、人口減少や少子高齢化が進み、単身世帯が増加する中で、地域における人と人とのつながりが希薄化しつつあります。しかしながら、こうした時代だからこそ、身近な地域での交流やつながりの大切さが一層重要になっていると考えております。近所での挨拶や声かけ、趣味のサークルへの参加、地域行事への参画など、日常の何気ない交流が、いざという時に助け合える関係づくりの基盤となります。地域のつながりは「ソーシャルキャピタル（社会関係資本）」とも呼ばれ、そこに暮らす一人ひとりの心身の健康や生活の質にも良い影響を与えることが明らかになっております。

泉区には、豊かな自然環境と温かい人のつながりがあります。「泉わくわくプラン」という愛称には、泉区の自然をイメージさせる「湧く」という言葉とともに、この計画を通じて、地域の皆様の心に温かい思いやりの気持ちが「わく」ことへの願いが込められております。

地域住民の皆様、関係機関・団体の皆様、そして行政が一体となって、誰もが安心して暮らせるまちの実現に向けて取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会 座長 村井 祐一

目次

第1章 泉わくわくプラン(泉区地域福祉保健計画)とは	1
1 はじめに(計画の目指すこと)	1
2 泉わくわくプラン(泉区地域福祉保健計画)の位置づけ	2
第2章 地区別計画	5
1 地区別計画とは	5
2 12地区の地区別計画	6
中川地区... 7 緑園地区... 9 新橋地区... 11 和泉北部地区... 13	
和泉中央地区... 15 下和泉地区... 17 富士見が丘地区... 19 上飯田地区... 21	
上飯田団地地区... 23 いちょう団地地区... 25 中田地区... 27 しらゆり地区... 29	
第3章 区計画	31
1 区計画とは	31
2 第4期計画での成果と課題	31
3 第5期計画の「基本理念」「推進の柱」	33
推進の柱1 健やかに過ごせるまち	34
重点項目1: 健やかに暮らし続けるための取組を進める	35
重点項目2: 自分らしく過ごせる地域づくりを進める	38
重点項目3: みんなで安心・安全な地域づくりに取り組む	41
推進の柱2 必要な支援が届くまち	45
重点項目1: 困りごとを支援につなぐ	46
重点項目2: みんなで支援する仕組みを整える	49
重点項目3: 一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える	52
推進の柱3 人と人、活動と活動がつながるまち	55
重点項目1: 多様性を理解し、つながる機会を作る	56
重点項目2: 参加する人を増やす	58
重点項目3: 担い手を増やす	61
第4章 計画の推進体制	65
1 地区別計画	65
2 区計画	65
【参考】資料編	69
1 データでみる泉区の状況	69
2 泉区のアンケート等より	73

コラム一覧

横浜市国民健康保険特定健診	36
フレイル予防	36
オーラルフレイル	37
人生会議(アドバンス・ケア・プランニング:略称 ACP)	39
もしも手帳・私のおぼえがき・わたしの人生計画帳	40
防犯に関する取組	42
福祉避難所	42
災害時要援護者支援	43
個別避難計画	44
横浜市避難ナビ	44
子育てに優しいまち泉区を目指して	47
子育て応援マーク	48
パマトコ	48
障害児・者社会参加促進支援事業	50
泉区障害福祉自立支援協議会	50
ひきこもり等の困難を抱える若者の支援	51
生活困窮者自立支援制度	51
いわゆる「ごみ屋敷」問題	52
泉サポートプロジェクト(サポプロ)	53
地域ケア会議	54
いずみサマースクール	57
いずみ多文化共生コーナー	57
区内ボランティア団体「愛護会等」の取組	58
つながりが地域を元気にする!	59
高齢期に必要な情報の発信	60
泉区の地域活動	62
泉わくわく応援隊	63

「泉わくわくプラン」とは 区民の皆様にとって覚えやすく、親しみを持ってもらえるよう、第4期計画策定時に公募により決定した愛称です。泉区の豊かな自然環境や泉をイメージさせる「湧く」を用いることで、泉区らしさを反映させた計画であることを表すことや、計画を通じて、温かい思いやりの気持ちが「わく」ことを期待する、などの想いが込められています。計画の推進についても、「わくわく」しながら取り組むことで誰もが安心して暮せるまちを目指します。



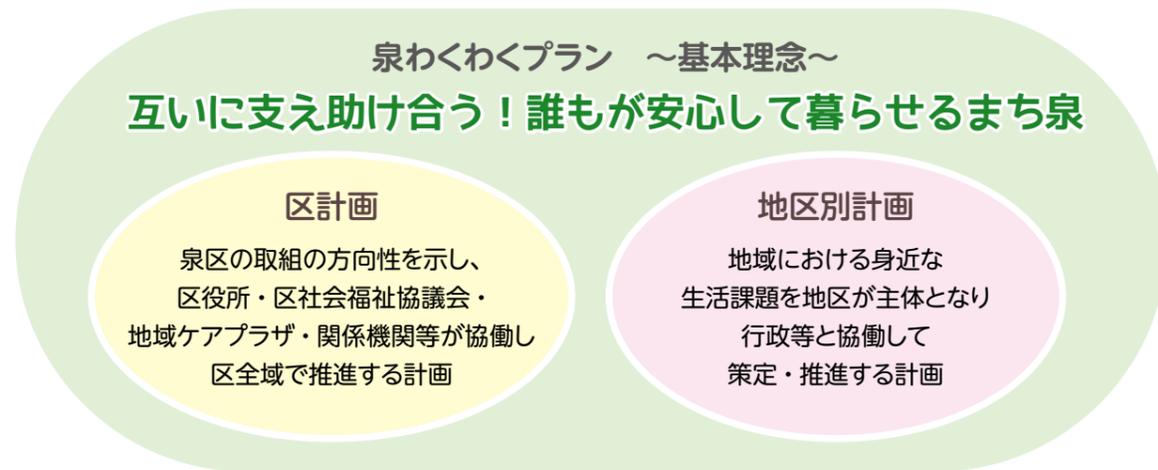
第1章 泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）とは

1 はじめに（計画の目指すこと）

(1) 泉わくわくプランとは

泉わくわくプランは、「互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉」を基本理念とし、基本理念が示すまちを実現するための取組を表した計画です。

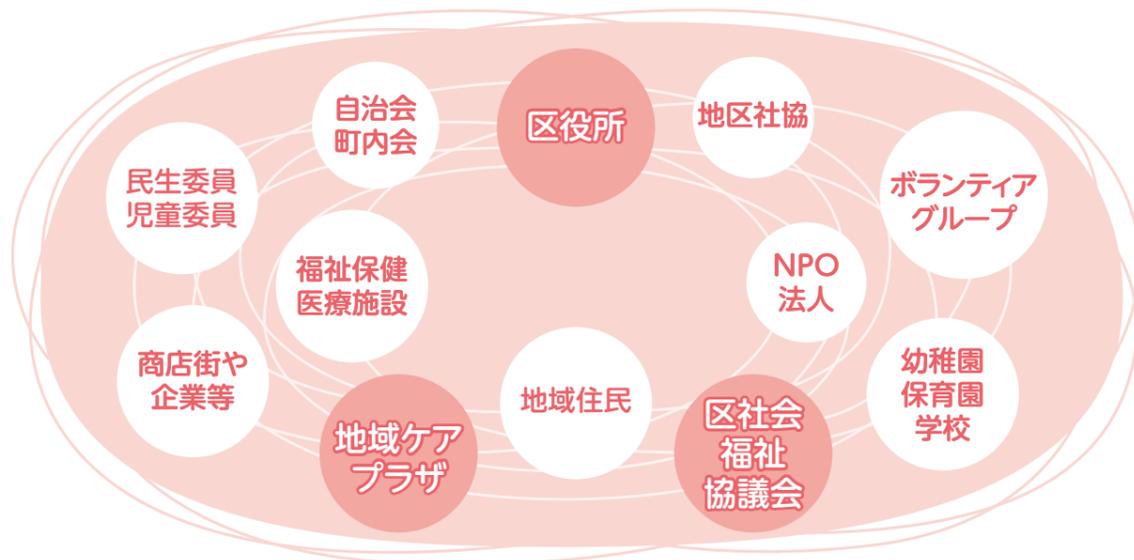
この計画は「地区別計画」「区計画」の2つで構成されています。「地区別計画」は地域が主体的に策定し、地区ごとの課題解決に向けて地域主体の取組を進めていくための計画です。「区計画」は地区別計画を支えるために、区域に共通する課題解決に向けて、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが、区民や関係機関と協働した取組を進めていくための計画です。



(2) 計画を推進していくために

泉区に住む誰もが、互いに支え助け合える関係を作り、誰もが安心して暮らせるまちを実現するためには、地域住民と行政、関係機関・団体等が協力して地域づくりに取り組む必要があります。

計画の策定を通じて、地域住民と行政、関係機関・団体等が地域ごとの現状や課題を明らかにし、より良いまちづくりに向けた目標を共有することで、同じ方向を見据えてそれぞれの役割に応じた取組を進めていくことができます。



2 泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）の位置づけ

(1) 策定の期間

地域福祉計画は、社会福祉法第107条の規定に基づき、市町村が策定するよう努めることが位置づけられています。横浜市では平成16年度に第1期計画を策定し、第2期計画より名称を「地域福祉保健計画」とし、福祉と保健の取組を一体的に推進しています。

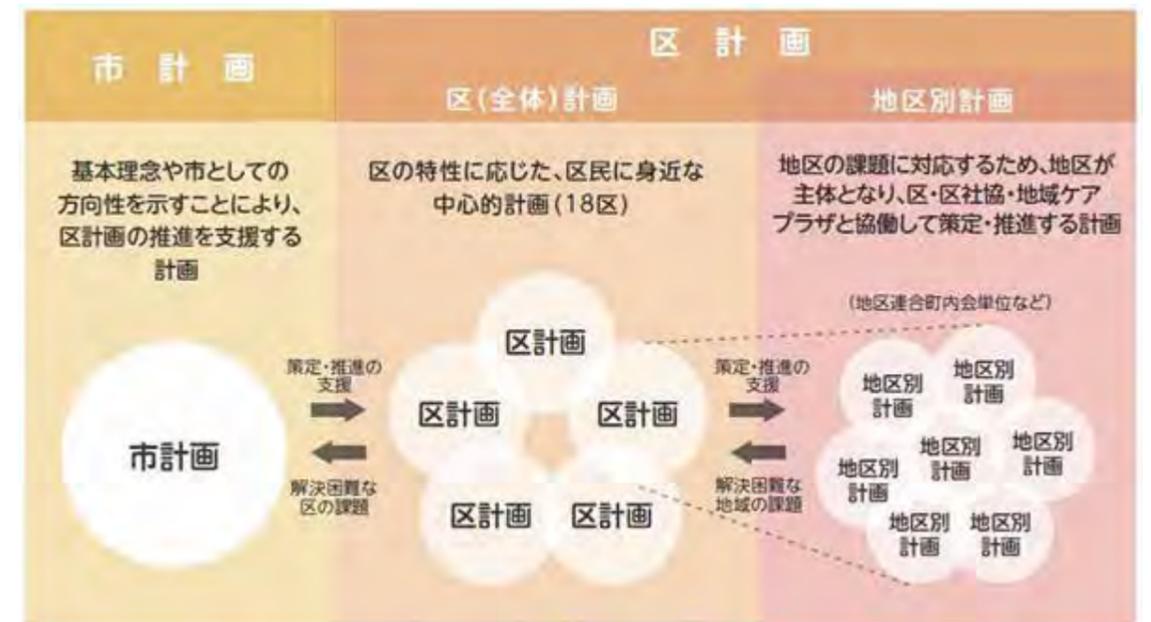
第5期泉わくわくプランは令和8年度から12年度までの5年間を対象とする計画です。

単位(年)	平成										令和															
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
市計画	第1期		第2期			第3期			第4期			第5期														
区計画	第1期		第2期			第3期			第4期			第5期														

(2) 市計画（横浜市地域福祉保健計画）との関係

横浜市の計画は、市計画・18区の区計画・地区別計画で構成されています。

それぞれの計画が連携を図りながら地域の課題解決に向けた取組を進めていきます。

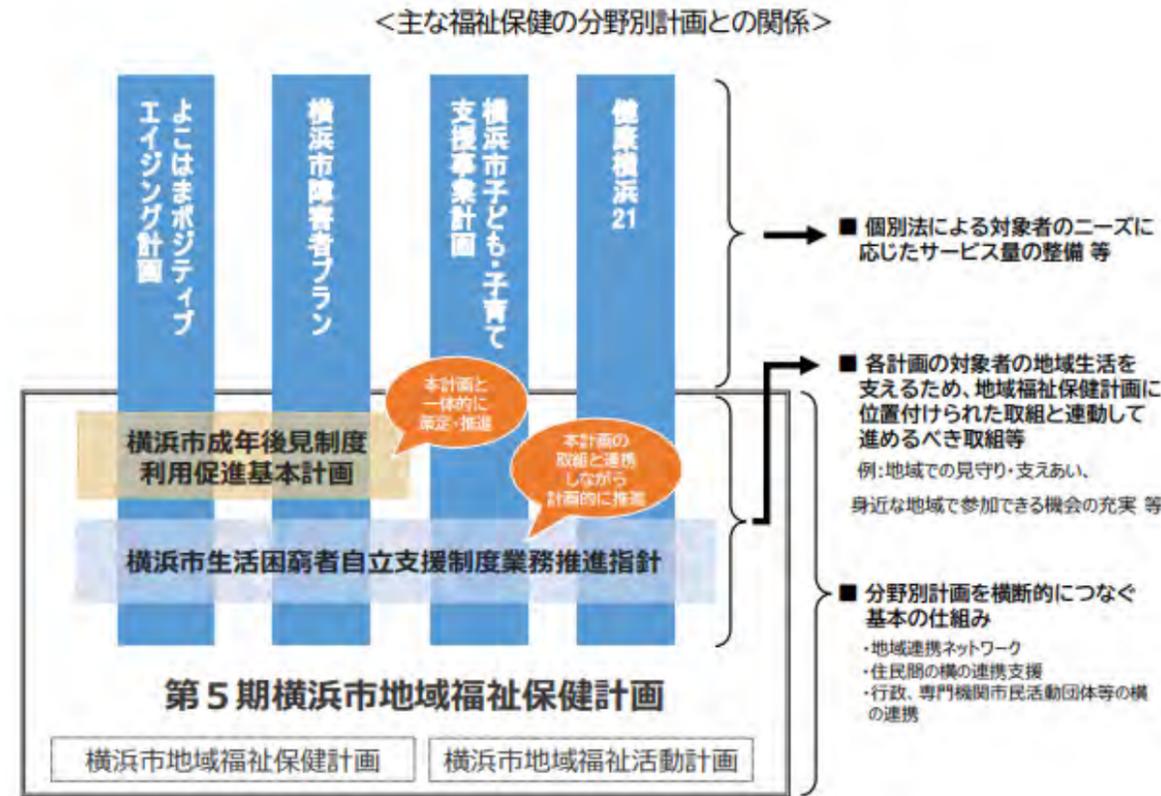


(出典：第5期横浜市地域福祉保健計画)

(3) 福祉保健の他分野計画との関係

地域福祉保健計画は、地域の視点から高齢者、障害のある方、子ども・若者等の対象者や、保健や健康に関する分野別計画に共通する理念、方針及び取組推進の方向性等を明示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。

また、分野別計画に掲げた事業や地域活動支援は地域福祉保健計画と連動して取組を進めることで対象者の地域生活の充実を図っていきます。



【地域福祉保健計画に関する計画】

- ・横浜市自殺対策計画 横浜市子どもの貧困対策に関する計画
- ・横浜市教育振興基本計画 横浜市再犯防止推進計画 横浜市人権施策基本指針

(出典：第5期横浜市地域福祉保健計画)

(4) 地域共生社会について

日本では人口減少が進む一方で単身世帯が増加し、少子高齢化が進んでいます。それに伴う地域活動の担い手不足や、住民相互の「つながり」が徐々に希薄化することにより、様々な生活課題を抱える方が、誰にも相談できずに孤立し、問題が深刻化してしまうことも珍しくありません。

そのような中で、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域の多様な主体が参画し、人や社会資源が世代や分野を超えてつながることで、様々な生活課題を抱えた方を地域が見守り、住民一人ひとりが生きがいと役割を持ち、安心して暮らせる社会のことを「地域共生社会」と言います。

地域共生社会の実現に向けて、市町村が「包括的な支援体制」づくりに努める旨、社会福祉法に規定されました。

(5) 横浜型地域包括ケアシステムについて

本市では、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療・介護・生活支援・介護予防が一体的に提供できるよう「横浜型地域包括ケアシステム」の構築を進めてきました。今後、総人口の減少が始まる中、2040年頃にかけて、高齢者人口は増加し続けることが見込まれています。そのため、医療、介護、生活支援などのニーズは、更に増大することが予測されることから、横浜の強みを生かして、「横浜型地域包括ケアシステム」を深化・推進します。

1. 横浜型地域包括ケアシステム～2025年・2040年を見据えた中長期的な将来像～

目指す将来像

- 地域で支え合いながら
- 医療や介護が必要になっても安心して生活でき
- 高齢者が自らの意思で自分らしく生きることができる



横浜の強みを生かし、次の視点で「横浜型地域包括ケアシステム」を深化・推進します

視点1	「地域ケアプラザ」を中心に、日常生活圏ごとに推進します
視点2	活発な市民活動や企業との協働を進めます
視点3	「介護予防・健康づくり」「社会参加」「生活支援」を一体的に推進し、健康寿命の延伸につなげます
視点4	医療と介護の連携など、多職種連携の強化を進めます
視点5	高齢者が「地域を支える担い手」として活躍できる環境整備を進めるとともに、医療や介護などの人材確保・育成に取り組みます
視点6	データに基づく施策立案を進めるほか、デジタル技術を有効に活用すること等により、介護現場における業務改善（生産性向上）に取り組みます

(出典：第9期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画)

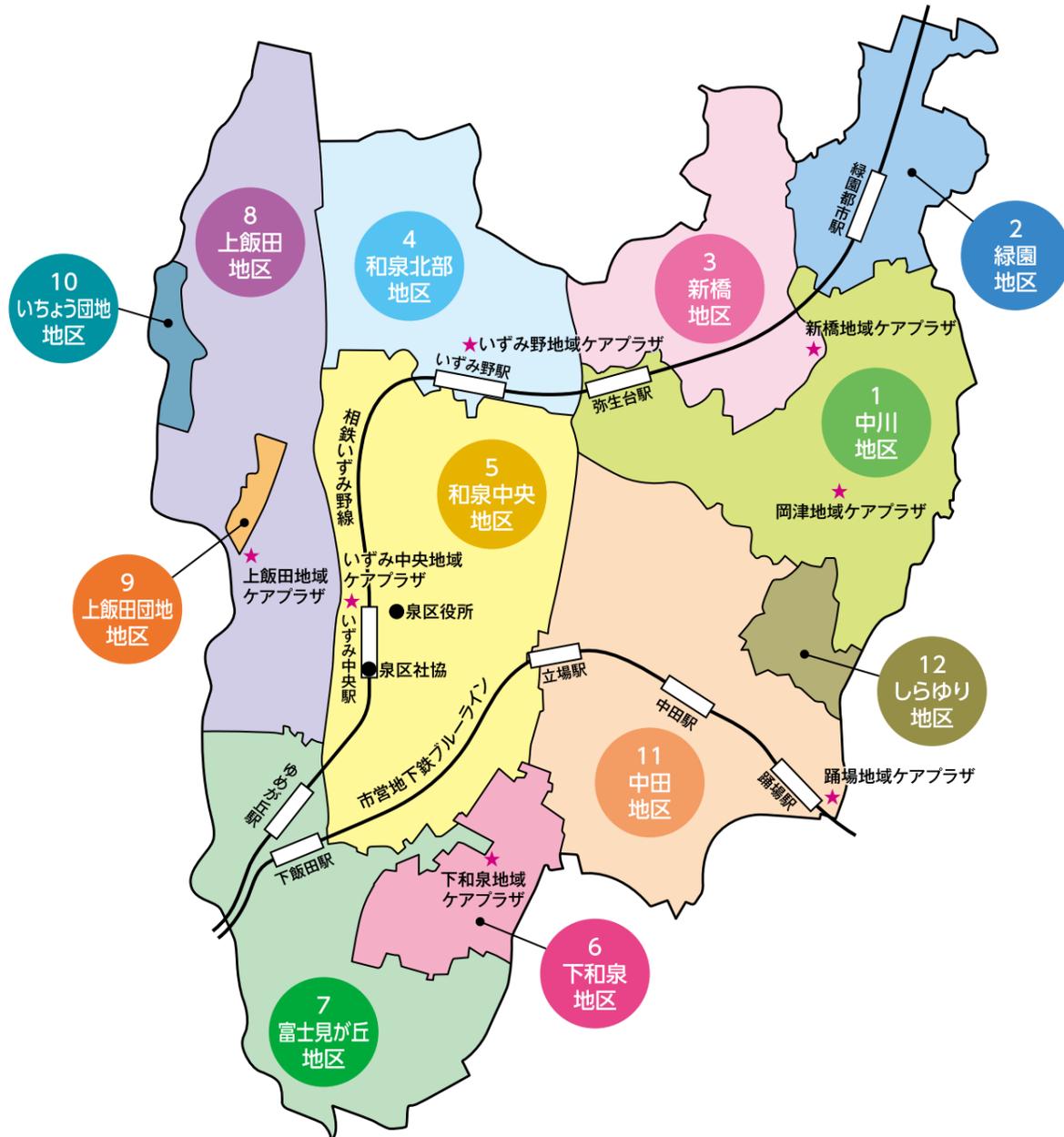
第2章 地区別計画

1 地区別計画とは

地区別計画は、生活の中での困りごとや地域の課題に対して、きめ細かく対応するための、地域住民や活動団体による支え合いの取組を示すものです。それぞれの地域で、福祉保健活動に関わる方々を中心に、地域住民自ら策定した計画です。

泉区では、連合自治会・町内会のエリアを基にした12の地区ごとに、地区別計画を策定し取組が進められています。

泉区内の12地区



2 12地区の地区別計画

泉区では、これまでに地域のみなさんが主体となって、様々な取組が行われてきました。その結果、世代間交流や活動団体間のネットワークづくり、高齢者サロンや健康づくり活動の増加など、たくさんの成果につながっています。

これまでの成果を踏まえてさらに暮らしやすいまちづくりを推進していくためにはみなさんの力が必要です。お住まいの地区の計画を見て、ぜひ取組に参加してください。

12 地区別計画の基本理念

地区名	基本理念
中川地区	ご近所で助け合えるまちを目指して
緑園地区	人と人のつながりを大切に 支え合い・助け合うまち緑園
新橋地区	ぬくもりのある町しんばし
和泉北部地区	いつまでも住みたい 共に支えるまち
和泉中央地区	豊かな自然と人情のまち 和泉中央
下和泉地区	笑顔つながる下和泉
富士見が丘地区	ご近所どうして助け合い 安全・安心・快適なまちづくり
上飯田地区	住み続けるなら上飯田～みんなが笑顔でやさしい仲間のまち～
上飯田団地地区	支え合い、安心して暮らし続けることができる上飯田暖地
いちよう団地地区	こんにちは 你好 Xin chào みんな笑顔で支え合うまち
中田地区	みんなで支え合う、暮らしやすいまち中田
しらゆり地区	ほどよくつながる楽しいまち しらゆり

中川地区

中川地区

第5期 中川地区
地域福祉保健計画
(令和8年度～令和12年度)

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支え合いによって
だれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

基本理念 ご近所で助け合えるまちを目指して

目指すまちの姿

みんなが
お互いに支え合い
助け合うことが
できるまち



障がい者、高齢者、
子どもなど、
みんなが安心して
暮らせるまち



みんなが健やかに
生きがい
を持てるまち

中川地区は岡津町、桂坂、西が岡、弥生台、領家、新橋町の一部、白百合三丁目の一部で構成されており、人口は令和7年3月時点で23,540人、高齢化率は29.34%となっています。

中川地区は畑や林など自然環境に恵まれており、遺跡や由緒ある寺社が数多く存在し、かまくら道をはじめ大山道、岡津道が通り、歴史ある地域です。また、地区内にはケアプラザや地区センター、コミュニティハウス、老人福祉センター(泉寿荘)、スポーツセンターなどの施設が充実し、地域活動が活発に行われています。

課題

- 担い手不足の解消
- 障がい者への理解を深める
- 認知症への理解を深める
- ネットワークづくり
- 買い物への支援に取り組む
- 現事業の再構築

第5期計画の具体的な取組

居場所づくり

- ★ 高齢者サロンの開催・支援
- ★ 里山夢プロジェクト

健康づくり

- ★ 健康体操教室
- ★ ウォーキング

ネットワークづくり

- ★ ネットワークの構築、活動支援

支援づくり

- ★ ライフサポート隊
- ★ 学習応援
- ★ 障がい者や認知症への理解を深めるための講座
- ★ 避難所ヘルプカードの取組
- ★ 買い物支援の研究

子育て・子ども支援

- ★ 子育て応援キャラバン隊
- ★ こども&地域食堂
- ★ 夏休み子ども食堂
- ★ 子育てサロンの開催・支援

情報発信

- ★ ホームページや地区社協だより「NAKAGAWA」を活用し、サロンやイベントの情報を発信します。

その他、中川連合町内会の活動など、中川地区内の様々な活動と連携して取り組んでいきます。



中川地区の活動紹介 (R7.12月現在)

里山夢プロジェクト

- 内容 野菜作り
- 日時 毎週火曜9:30～
- 場所 岡津町 けいあいの郷 緑園前「OZAWA FARM」



じゃがいも掘りやさつまいも掘り、芋煮会などのイベントも開催しています♪

ライフサポート隊

- 対象 高齢者・障がい者
- 内容 庭の草取り・枝切り、粗大ごみの搬出、家具の移動、電球の交換、家事手伝いなど、日常のちょっとした困りごとをお手伝い
- 電話 080-9261-8000



お手伝いをしてくれる
隊員も募集中!!

子育て応援キャラバン隊

- 内容 ① ほっとカフェひまわり (第4金曜10:30～11:30)
- ② 公園あそび、室内遊び
- ③ クリスマス会など おたのしみ会(年2回)
- 場所 岡津地域ケアプラザ、中川地区内公園 など



タンタン

- 内容 乳幼児向け子育てサロン
- 日時 毎週木曜10:00～11:30
- 場所 弥生台自治会館



健康体操教室

- 内容 概ね60歳以上の人の体操教室
- 日時 第3金曜10:00～11:30
- 場所 岡津地域ケアプラザ



永明寺別院サロン

- 内容 多世代交流サロン
- 日時 第3火曜10:00～12:00
- 場所 永明寺別院



岡津サロン

- 内容 高齢者サロン
- 日時 第2水曜10:00～12:00
- 場所 岡津地域ケアプラザ



さんすうやるぞう・こども & 地域食堂

- 内容 ボランティアによる学習サポート(無料) 夕食の提供(こども200円、大人500円)
- 日時 毎週水曜15:00～18:00
- 場所 コミュニティだんだん



第4期計画で重点的に取り組んだこと

子育て応援 キャラバン隊

ママ・パパ同士はもちろん、地域の人とふれあい、世代を超えた交流の場となるよう、様々な活動や情報提供をしながら、子育ての支援を行っています。

ネットワークづくり

地域に広がりつなげる活動の輪を目指して、「地域福祉ネットワークフェスタ」を開催しました。地域の福祉団体やサークルなどの活動をより多くの皆さんに知ってもらいたい、ボランティアとして一緒に活動していただけたら…。そんな願いを込めて各団体が協力して取り組んでいます。

障がい理解への取組

障がい者への理解を深めるための講座を開催。また災害時には障がい者が防災拠点へ避難しやすくなるよう避難所ヘルプカードの活用に取り組んでいます。



策定 中川地区社会福祉協議会、中川連合町内会

(ホームページ) http://network.shakyo-iy.or.jp/chii_ki_act/301/301_1.html

協力 中川地区支援チーム

岡津地域ケアプラザ 電話 812-0685
泉区社会福祉協議会 電話 802-2150 泉区役所福祉保健センター 電話 800-2433

中川地区の活動情報を発信していきますので、ぜひご覧ください♪
上記以外の活動や、イベントの日程等もホームページに掲載しています。



人と人のつながりを大切に 支え合い・助け合うまち緑園

緑園地区がめざすまちの姿

- ◆ 誰もが安全・安心して過ごせるまち
- ◆ ご近所同士が気軽に交流できるまち
- ◆ 子育てしやすい親子がつどうまち

第4期計画

令和3年度～令和7年度の振り返り

第4期地域福祉保健計画は、コロナ禍で地域の皆さんにはご不便をお掛けしましたが、感染症対策を着実にしながら、「つながりの輪を広げ、支え合い・助け合うまち緑園」をスローガンに活動を展開し、自治会、地区社協、各種団体等が協働し、「地域交流活動」「親子の居場所・高齢者サロン」「健康づくりラジオ体操」「施設訪問・研修会」等、大きな成果を上げることができました。一方、高齢者の増加によりサロン等近場での開催、施設訪問拡大の要望も多く、今後、ボランティアの参加や担い手を増やすことが課題となっています。

《第5期計画》活動目標・具体的な取組

地域交流の活動

ふれあい祭り・キッズフェスティバル・室内ゲーム大会を開催し、子どもから高齢者まで気軽に交流できる場を提供します。

子育て支援

親と子の居場所・つどいの場、こどもの居場所づくり活動を通じて、乳幼児から児童の成長にあわせた支援を保育園、子育て支援団体、緑園学園と連携し、取組んでいきます。

高齢者等の支援

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、各種団体等が協働して、高齢者、障がい者、地域の施設利用者への理解を深め、ボランティアや担い手を増やす取組を進めます。

健康づくりと予防

高齢者サロンによる軽い運動、自治会と連携によるラジオ体操、新たにポッチャを推進し、健康づくりと認知症予防に取り組んでいきます。

見守り活動

特殊詐欺・匿名流動化犯罪グループ等による犯罪の警戒を呼びかけ、防犯パトロール、緑園学園登下校の見守り活動を推進します。

支え合い・助け合い

人のつながりの輪を広げ、身近な住民同士が支え合い・助け合う、災害時要援護者の支援活動、身近な困りごとを解決する取組を進めます。

緑園地区はこんなまちです!

緑園地区は泉区の北東部に位置し、縦断する相鉄線は令和元年11月30日からJR線と相互直通運転を開始し、新宿駅までを結んでいます。さらに令和5年3月18日東急線との直通運転も開始され、新横浜駅を経由して東急東横線・目黒線方面への乗り入れも行われています。これにより緑園都市駅から都心へのアクセスが向上しました。

令和4年4月1日には泉区初の小中一貫校・緑園義務教育学校が開校し、フェリス女学院大学、県立横浜緑園高校と共に教育環境も整っています。

また、こども自然公園、戸塚カントリークラブに隣接し、緑が豊かなまちとして親しまれています。

緑園地区の活動紹介

室内ゲーム大会

- 開催日 毎年7月下旬
- 場所 緑園地域交流センター
- 内容 地域交流の場

● 地域の皆さんが趣味の麻雀で交流を深めながら、楽しく競技する大会



緑園福祉ふれあい祭り

- 開催日 毎年10月下旬
- 場所 緑園地域交流センター
- 内容 地域交流の場

● 緑園学園の生徒、趣味サークルによる唄やダンス、地産野菜の販売や模擬店が出店



緑園キッズフェスティバル

- 開催日 毎年11月中旬
- 場所 緑園地域交流センター
- 内容 地域交流の場、子育て支援

● 子育て世代がつどい、マスコットと遊び・写真撮影



さくらカフェ緑園

- 開催日 毎月第1木曜日
- 場所 緑園地域交流センター
- 内容 高齢者の支援(茶話会)

● 地域の高齢者が、お茶を飲みながら軽い運動やゲームを交えて、気軽におしゃべりを楽しむ



緑園サロン

- 開催日 毎月第2木曜日・第4金曜日
- 場所 緑園地域交流センター
- 内容 高齢者の支援

● 高齢者がつどい、ゲーム大会、講演会・保育園の卒業を祝う会など、工夫したイベントが楽しめる



親子の居場所“ぐりん”

- 開催日 毎月第3木曜日
- 場所 緑園地域交流センター
- 内容 子育て支援

● 育児中のパパ・ママがつどい、子育て相談と情報交換しながら、仲間づくり



【策定】

緑園地区社会福祉協議会
TEL:090-3426-0294

【事務局：緑園地区地域支援チーム】

泉区福祉保健センター TEL:800-2433
泉区社会福祉協議会 TEL:802-2150
新橋地域ケアプラザ TEL:813-3877

ぬくもりのある町しんばし

子どもから高齢者まであいさつを交わせる町 新橋町

新橋地区が
めざす町



① 助け合いのある町

子どもから高齢者まで誰もが声を掛け合って助け合える町をめざします。自助・公助に加え、近所で助け合う町(共助)をめざします。

② 見守りのある安心な町

子どもから高齢者まで見守りを行い、障害があってもなくても、安心して暮らせる町をめざします。

③ 楽しく健やかにすごせる町

元気に歳を重ね、心身ともにいつまでも楽しく健やかにすごせる町をめざします。

④ 地域の活動を未来につなげる町

地域の活動を一緒に行う仲間を増やし、地域の活動を未来につなげる町をめざします。



活動目標

第5期計画の取組(令和8年度～12年度)

目標①

多くの仲間と一緒に地域活動を行えるよう、様々な機会を作ります。

- 第4期の活動を継続し、地域の自然にふれあう活動、趣味を生かした活動など、地域の親交に役立つ企画を開催します。
- 地域活動の担い手を増やす取り組みを進めます。

目標②

子育て世代から高齢世代まで、多世代が交流できる場を提供します。

- サロン活動やコミュニティ食堂を継続し、より多くの方が参加しやすいように内容の充実を図ります。
- 普段からの声掛けが広がることをめざします。

目標③

たくさんの人が健康づくりの活動に取り組めます。

- サロン活動などの中で定期的な軽い運動や健康チェックを取り入れて、日常的な健康づくり活動の定着をめざします。
- 高齢者のフレイル(加齢による心身の衰え)予防に取り組めます。

目標④

地域の情報を発信し、たくさんの人が参加できるようにします。

- 地域の出来事やイベント情報を、誰でも見やすく容易に触れられるように工夫します。
- 広報紙「新橋だより」やホームページ、LINE公式アカウント「しんばし子育てコミュニティ」などを通じて、積極的に地域情報を発信します。
- 新橋地区社協の様々な事業活動を参加者や住民に積極的に伝えていきます。

【策定】新橋地区社会福祉協議会

【事務局】泉区役所福祉保健センター
泉区社会福祉協議会
新橋地域ケアプラザ

TEL: 800-2433
TEL: 802-2150
TEL: 813-3877

活動目標・具体的な取組

第4期計画での成果(令和3年度～7年度)

目標①

地域の活動を一緒に行う仲間をふやします。

趣味を生かした活動として「ふれあいサロン寺子屋パソコン」「竹炭をつくる会」「新橋自然観察クラブ」「刃物研ぎ」「新橋ホームふれあい麻雀」などの活動を行い充実した生活を過ごせる機会を提供しました。また、地域の支えあい、助け合い活動として「助け合いぬくもり隊」を結成し、高齢者などの困りごとの解決を行いました。



▲ふれあいサロン寺子屋パソコン



▲新橋ホームふれあい麻雀



▲助け合いぬくもり隊

目標②

子育て世代から高齢世代まで、多世代が交流できる場を提供します。

子育て世代から中高年世代など各世代を対象に「しんばしカフェサロン」「気軽にサロン」「しんばし子育てサロン」を開催し、交流や情報交換の場を提供しました。また「コミュニティしんばし食堂」や「カレーを食べる会」では全世代が利用できる楽しい食事の場を提供し、多世代間交流が深まりました。「しんばし自習クラブ」では学習指導を通じて世代間交流が深まりました。



▲気軽にサロン



▲しんばし子育てサロン



▲コミュニティしんばし食堂



▲カレーを食べる会

目標③

たくさんの人が健康づくりの活動に取り組めるようにします。

「しんばしカフェサロン」では中高年世代を対象に、軽い運動や健康チェックを行いフレイル予防に取り組む、楽しく過ごす場を提供しました。また「びんころラジオ体操」では、ラジオ体操を通じて健康作りに取り組む、「新橋自然観察クラブ」は地域の自然に触れ合いながら楽しくウォーキングする機会を提供しています。



▲しんばしカフェサロン



▲びんころラジオ体操



▲新橋自然観察クラブ

目標④

地域の情報を発信し、たくさんの人が参加できるようにします。

広報紙「新橋だより」やホームページで地域の出来事や情報を積極的に発信し、LINE公式アカウント「しんばし子育てコミュニティ」では子育て世代に特化したイベント情報を発信、参加者を大幅に増やしました。また、地域に自生する竹林を活用して地域住民自身が竹灯籠を制作し、竹灯籠祭りを盛大に開催しました。



▲新橋竹灯籠祭り



▲しんばし子育てコミュニティ

和泉北部地区

第5期 和泉北部地区
地域福祉保健計画
(令和8年度～令和12年度)

いつまでも住みたい 共に支えるまち

和泉北部地区ってこんなまち

● 相鉄線「いずみ野」駅周辺から三家・ひなた山地区に広がる、坂道が少なく住みやすい立地。
和泉川沿いは昔ながらの家並みが残り、懐かしさと新しい景色が馴染み、落ち着いたまちです。

● 泉区は横浜市の中でも畑が多く、直売所も充実。自然に囲まれたのどかな雰囲気の魅力です。

● マンションや団地が多く、高齢の方も増えています。
(高齢化率37.5% 令和6年9月時点)
ひとり暮らしの方も安心して暮らせるよう、皆で支え合える居場所づくりが求められています。

● 「いずみ野地域ケアプラザ」や自治会館などを中心に、地域のつながりを大切にした活動が盛んです。

健康 交流 参加

第4期計画では3つの柱に沿って様々な活動を展開しました



健康

健康体力測定会や、介護予防講座、合同パトロールを実施しました。



交流

敬老のつどい、特別養護老人ホーム「白寿荘」でのみかん狩り等の交流イベントや、ひとり暮らし高齢者訪問、年末たすけあいマスク配付等の見守り活動を展開しました。



参加

夏まつり、福祉バザー、いずみ野文化祭等の多世代を対象とした参加型イベントの他、子育てサロンや高齢者サロンを実施しました。

地域活動に関わる方や関係団体のみなさんと

こんな和泉北部地区になったらいいな!という話し合いをしました

健康 と 安全

- 地域での健康体操はこれからも必要
- 困った時に気軽に相談しあえるつながりが必要
- エレベーターがない集合住宅があり、外出・買物や通院のサポートが必要な人がいる。
- 地域活動に若い人も参加してもらえたらいいな!

参加 と 交流

- イベント参加のはじめの一步をふみ出しやすくする取組が必要
- 誰も一人にしないためのつながりが必要
- 年齢に関係なく色々な人が参加できるイベントがあったらいいな!

つながり と 支えあい

- 地域のイベントなどの情報を多くの住民に届けるにはどうしたらいいか?
- グループホームなどの福祉施設と地域が交流できる取組があったらいいな!
- 子どものアイデアを活かしたイベントに、ボランティアとして協力してもらえたらいいな!

【策定】
和泉北部地域福祉保健計画推進委員会
和泉北部連合自治会
和泉北部地区社会福祉協議会

【事務局】
泉区社会福祉協議会
いずみ野地域ケアプラザ
泉区役所福祉保健センター

TEL: 802-2150 FAX: 804-6042
TEL: 800-0322 FAX: 800-0324
TEL: 800-2433 FAX: 800-2516

第5期計画の目指す姿と取組

健康 と 安全 ～予防がつくる、からだも心も元気なまち～

目指す姿

- 1 つながりを大切にした健康づくりの取組を推進し、若い世代の参加により、多世代に広げていきます。
- 2 高齢化に向けて、介護や認知症への理解を進めます。
- 3 災害時に助け合える地域を目指し、互助・共助の意識啓発と関係機関・施設との協働体制を作ります。
- 4 登下校の見守りを通じ、住民が挨拶をかわし、安心して暮らせるまちを目指します。

取組

- 1 健康づくり/ラジオ体操、グラウンドゴルフ、ベタンク、ストレッチ等の体操教室、手洗い教室(小学校)、暮らしの保健室(ぴぐれっと)
- 2 認知症等への理解/介護予防教室、認知症サポーター養成講座、車イス講座(地域ケアプラザや白寿荘と連携)等
- 3 防災/自治会町内会主催の防災講座・訓練・見回り活動、地域防災拠点を中心に関係機関・施設との連携強化
- 4 防犯/連合自治会主催合同パトロール、学援隊による登下校の見守り、自治会町内会主催の防犯講座・懇談会等



ストレッチわかば

参加 と 交流 ～理解から広がる、誰もが出かけたくなるまち～

目指す姿

- 1 地域行事やサロン等に気軽に参加でき、住民の垣根を超えた交流や、互いに支えあえる地域を目指します。
- 2 様々な世代が交流できるイベントを開催し、住民同士が理解しあえる機会を設けます。
- 3 買い物や通院、趣味の活動など、いつまでも地域で自分らしい暮らしが実現できるよう、住民同士の送迎を支援します。

取組

- 1 外出の機会/高齢者サロン、この指止まれ、お出かけカフェ等
- 2 世代間交流/大運動会、いずみ野文化祭、いずみ野夏まつり、子ども神輿パレード、敬老のつどい(泉わくわく応援隊の参加)、福祉バザー、新春歩け歩け大会
- 3 移動支援/お出かけサポーター等



お出かけサポーター

つながり と 支えあい ～誰もがつながりあえるまち～

目指す姿

- 1 様々な世代にアプローチできるように情報発信をしていきます。
- 2 地域住民と福祉施設等との交流や自然なつながりを促進します。
- 3 子育て世帯など多くの住民が地域活動に参加しやすくなるようにします。
- 4 地域イベントに子どものアイデアを取り入れていきます。

取組

- 1 地域行事の周知/回覧板と他の媒体を併用
- 2 福祉施設との交流/住民と施設の交流イベント等
- 3 多世代交流の場づくり/交流サロンすこやか会、子育てサロンぽんた、わくわく農園(かけはし)、多世代食堂いずみ野キッチン、子ども向けイベントを通じて親世代も含めた交流等
- 4 子どもの意見を反映したイベント/学校やかけはしを通じてアイデアを募集等



いずみ野キッチン

豊かな自然と人情のまち

和泉中央

目指すまちの姿

顔見知りが増え
支え合えるまち

多世代の交流が
深まるまち

地域に
愛着が
持てるまち

身近な場所で
健康づくりが
出来るまち

和泉中央地区の魅力

● 日常に溶け込む
自然の豊かさ

● つながりを大事にできる
人情の深さ

● 都心に近く仕事も
遊びも充実

和泉中央地区の地域活動のあゆみ ～第4期地域福祉保健計画の成果～

気軽に交流できる機会・場があるまち

常設サロン「いこいの家」



コロナ禍でも工夫しながら運営を継続し、誰でも気軽に立ち寄れる地域の居場所として多くの方に利用されました。

ふるさとまつり



和泉中央地区最大のイベント。令和6年度からは地蔵原の水辺での開催が復活し、多くの来場者で賑わいました。

お互い助け合い支え合うまち

防犯パトロール



各自治会・町内会では日頃からの防犯パトロールに加えて、年1回官民合同のパトロールを行い、安心して暮らせるまちづくりを行いました。

ふれあいヘルプ



70歳以上の一人暮らしや高齢世帯の方のちょっとした家事のお手伝いを通して、見守りを行いました。

みんなが健康で楽しいまち

スポーツフェスティバル



これまで自治会町内会対抗で行っていた体育祭が、令和5年度より多世代で様々な種目を楽しめるスポーツフェスティバルへと進化しました。

いずみっこ食堂



子どもから大人まで様々な世代が集う地域の居場所として、令和5年度からスタート。多世代が交流できる機会になりました。

地域の担い手が育つまち

中学生ボランティアの活躍



ふるさとまつりやスポーツフェスティバルでは、中和田中学校の生徒がお手伝いとして協力し、イベントを盛り上げてくれました。

校内カフェ「スタジーズカフェ」



中和田中学校の校内で、放課後の生徒の居場所として校内カフェが始まりました。生徒が心を開いて自分らしくある居場所になりました。

和泉中央地区にお住まいの皆さんの声 ～住民アンケートの結果から～

第5期計画策定に向けて和泉中央地区在住の方にアンケートを実施し、270名の方からご回答いただきました。

Q どんな場面で・どんな人と交流したい?

- 気軽に人と交流できると感じる場面は、10～40代はイベントなどの機会、60代以上は普段の生活の中で。
- 年代が上がるにつれて、異なる年代と関わりたいという思いを持つ人が増える!

Q 助け合いができていて感じる?

- 約7割の方が「できていて感じる」と回答!

Q 健康づくりのために地域でどんなことができるといい?

- ウォーキングは世代を超えて人気が高い! 70～80代は、身近な場所で手軽に行える活動を求めている。



Q 地域のボランティアを増やすためにどんな機会があるといい?

- どの世代も「気軽に交流できるイベント」があるといい!
- さらに10代は「家の中でできる活動」、30～40代は「親子で参加できる活動」、70～80代は「外で体を動かしてできる活動」の関心が高い。

和泉中央地区ではこんなことを大切に活動します

目指すまちの姿

多世代の交流が深まるまち

- 誰もが参加できる活動を継続していきます。
- 交流をもち、つながっていくことの大切さを伝えていきます。
- 多様な参加が出来るしくみを考えていきます。
- ▶ ふるさとまつり・連合・各自治会町内会のイベント
- ▶ いこいの家・高齢者サロン・十日会
- ▶ 障がい児・者との交流、散歩とレクの会など



顔見知りが増え、支え合えるまち

- 住民同士が支えあい、ちょっとした困りごとをお手伝いできる活動を広めます。
- 日常を安心して過ごせるための防犯や交通パトロール活動を継続します。
- いざというとき一人ひとりが動けるように防災意識を高める活動をしていきます。
- ▶ ふれあいヘルプ、見守り活動
- ▶ 交通安全運動・防犯パトロール
- ▶ 防災訓練

身近な場所で健康づくりができるまち

- 豊かな自然の中で健康を保つ活動に取り組みます。
- どの世代も楽しめるスポーツ活動を推進します。
- 身体も心も健やかに過ごせるための場作りをしていきます。
- ▶ ウォーキング
- ▶ スポーツフェスティバル・ソフトボール大会など
- ▶ 健康体操教室など



地域に愛着が持てるまち

- 親子で参加できるイベントを通じて地域の魅力を知る機会を作っていきます。
- 若い世代が活躍できる場を広げていきます。
- 気軽に参加でき、地域活動の楽しさを感じられる場を続けていきます。
- ▶ 和泉川クリーンアップ等
- ▶ 泉わくわく応援隊
- ▶ いずみっこ食堂



【策定】

和泉中央地区地域福祉保健計画活動推進委員会

【問合せ先】

泉区役所福祉保健センター Tel. 800-2433
 泉区社会福祉協議会 Tel. 802-2150
 いずみ中央地域ケアプラザ Tel. 805-1700

笑顔つながる下和泉

目指す
まちの姿

みんなが支え合い、安心して健康に暮らせるまち

みんなが笑顔になる健康づくり

- 地域の施設を活用した健康づくりに取り組みます。
- 身体も心もリフレッシュする「健康講座」や「健康チェック」に取り組みます!
- 自然あふれる地域を歩く「健康ウォーキング」に取り組みます!



笑顔で支え合おう! 助け合おう!

- 「下和泉役立ち隊」は、高齢者世帯のちょっとした困りごとをお手伝いします。
- 赤ちゃんの笑顔あふれる「子育てサロン」を通して子育て中の方々を支えます。
- 防災意識を高める取組みを進めます。



笑顔を広めよう! つなげよう!

- 広報誌「ほたる」やXなどのSNS、「ケアプラザだより」などで活動内容をお届けします。
- 「思いやり」、「助け合い」、「防災」などをテーマにした「標語」により、みんなの絆を深め笑顔を広めます。
- 「下和泉ハロウィン」では赤ちゃんから大人まで、みんなの笑顔をつなげます。



下和泉地区の活動はXからもご覧いただけます



令和6年度入選作品から

登下校
めくもり感じる見守り隊

助け合い
みんなで作ろう下和泉

あいさつは
町をゆたかにする言葉

みんなが支え合い、安心して健康に暮らせるまち

第4期計画の取組みと成果

健康づくりに取り組もう!

- 「健康ウォーキング」を年2回、「健康チェック」も年2回実施しました。

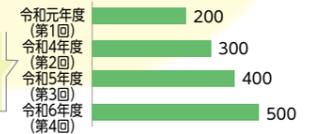
支え合おう! 助け合おう!

- 「下和泉役立ち隊」は高齢者の困りごとに対応し、出勤回数は年50回を超えています。
- 「子育てサロン」は月1回実施しました。
- 「八日会」は令和6年度で取組みを終了しました。

広めよう! つなげよう! つながろう!

- 広報誌「ほたる」を年4回発行。
- 「支え合い、助け合い」の標語は小中学校のご協力により、応募者数は400名を超えました。
- 「下和泉ハロウィン」を毎年10月最終土曜日に実施しました。

ハロウィンに参加した子どもの数(人)



振り返りにアンケートを実施

【実施期間】R7年4月～5月【対象】下和泉連合町内会エリア在住者【方法】アンケート用紙、Webフォームで回答収集【回答数】189名

各取組みの認知度について



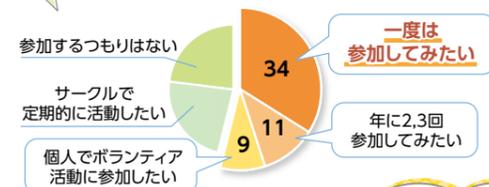
どの取組みも、約6割の住民の方から「知っている」と回答がありました!



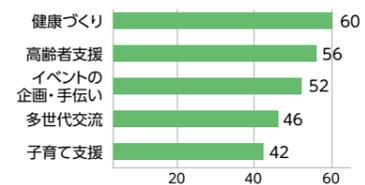
ボランティアの担い手不足について

ボランティアについてアンケート調査したところ、前向きなお答えをいただきました。

ボランティア活動に参加してみたいと思いますか? (%)



やってみたいボランティア活動(人)

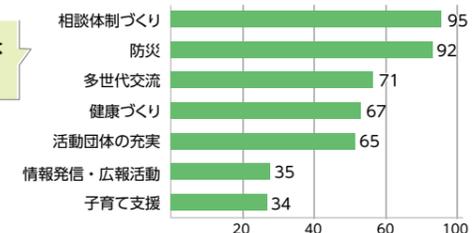


ボランティアに興味のある方が意外と多い。ボランティアを募って担い手不足解消!



第5期計画に向け、今後に期待する取組み

今後期待する取組みは何ですか? (人)



期待に応える取組みに努めます!



【策定事務局】下和泉地区社会福祉協議会・下和泉連合町内会
泉区福祉保健課(☎800-2433)・泉区社会福祉協議会(☎802-2150)・下和泉地域ケアプラザ(☎802-9920)

富士見が丘地区

第5期 富士見が丘地区
地域福祉保健計画
(令和8年度～令和12年度)

ご近所どうして助け合い
安全・安心・快適なまちづくり

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支え合いによって
だれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

ご近所同士が
声をかけ合うまち

みんなの心が
つながるまち

安全・安心なまち

子育てしやすいまち

めざすまちの姿

誰もが気軽に
地域活動に参加できるまち

今後、5年間の目標と取組です！

目標 みんなが参加・交流できる場を広げます

障がい
高齢

- ・障がいのある方が自然に地域活動に参加できる機会を増やします。
- ・「介護」や「認知症」について考える機会を増やします。
- ・社会福祉施設・事業所との地域の交流・連携をより深めます。

子ども

- ・子どもたちが地域活動に参加しやすくなるよう、学校とのつながりを深めます。
- ・親子が安心して子育てできる環境づくりを進めます。



目標 身近な場所で健康づくりを進めます **人生100年!!**

健康

- ・何歳になっても、健康でいられるように身近で気軽に集える機会を増やし、参加者の生きがい・やりがいを大切にします。
- ・各サロンの活動を活かして、心身の健康づくりに取り組みます。



目標 地域のさまざまな情報を発信・共有します

防災

- ・いざという時の備えとして、何が必要か伝え、気軽に声をかけ合える安全・安心な関係をつくります。

情報

- ・情報発信を充実させて、様々な世代に情報が行き届くようにします。



第4期 富士見が丘地区地域福祉保健計画



過去5年間(令和3年度～令和7年度) 取り組んできたことと成果

ポッチャ大会



自治会・町内会の方々や小中学生と障がい者施設・事業所の皆さまを交えたポッチャ大会を開催しました！大接戦となり応援も大変盛り上がりしました。

高齢者ふれあい市場



移動販売「ぼかぼかマーケット」と民生委員が連携し、一人暮らしの高齢者を対象とした「ふれあい市場」を開催しました。同世代の方々が徐々に顔を合わせ、会話も弾みしました。

子育てサロン大集結



各地区の子育てサロンが集合し、中学校の協力のもと中学生と親子が交流出来る場を設けました。令和6年度「横浜市教育委員会表彰」を受賞しました。

障がい理解講座



富士見が丘地区は、福祉施設が多い地域特性を生かし、地域と施設のつながりづくりを進めています。その一環として、障がい者施設の職員を講師に、障がいの特性や必要な配慮を学ぶ講演会を開催しました。大勢の参加があり、意見交換も熱心に行われました。

富士見が丘連合まつり



地区社協として、福祉施設の出店や、地域福祉保健計画推進委員会として地域活動のパネルの展示やバルーンアートを実施しました。また、高齢者を対象に模擬店利用券を配布したり泉わくわく応援隊の中学生がボランティアとして活躍しました。

地域福祉保健計画推進委員会



第4期地区別計画の目標に関連する関係施設・団体が集まり、活動報告や今後に向けた意見交換を通じて交流を深めました。福祉の会、各サロン、健康づくり活動などを通じて、ご近所同士の助け合いの輪を広げています。

富士見が丘地区では、第4期地域福祉保健計画において、地域福祉保健計画幹事会での毎月の継続的な話し合いとともに、多様なイベントを通じた住民の交流を図ってきました。

主な
課題

- ・高齢者・障がいのある方・学生・子どもなどの間で、日常的なつながりが希薄になっている
- ・足腰が弱くなり外出しづらい高齢者の見守りや活動への参加
- ・情報伝達方法に工夫が必要(世代に応じた手段の見直し)

【策定】富士見が丘地区地域福祉保健計画推進委員会

問い合わせ

泉区役所福祉保健センター
TEL: 800-2433
FAX: 800-2516

泉区社会福祉協議会
TEL: 802-2150
FAX: 804-6042

下和泉地域ケアプラザ
TEL: 802-9920
FAX: 802-9927

第5期上飯田地区地域福祉保健計画(令和8年度~令和12年度)

住み続けるなら上飯田

～みんなが笑顔でやさしい仲間のまち～

目指すまちの姿

人とのふれあいを大切に、
長く住みたいと思えるまち

みんながのびのび
安全に暮らせるまち

誰もが楽しく地域活動に
参加しているまち

防災意識を持ち
助け合えるまち

第5期計画の具体的な取組

世代間交流の場を増やします

- 子どもから高齢者まで参加できるイベントの開催
- 世代間の交流ができる居場所の充実
- 地域活動の継承



あやめ祭り

地域資源を活用し、外出の機会を増やします

- 地域で活動する青少年ボランティア(泉わくわく応援隊)の活動の場づくり
- 福祉施設(泉サポートプロジェクト)と連携し、移動支援や集いの場づくり



移動支援

安全・安心でやさしいまちにします

- 笑顔であいさつ、声掛け
- 外国籍の方との日常的な交流
- 家族で参加しやすい防災訓練の実施
- 防犯講習会等を実施



防災訓練

地域情報を発信します

- ホームページやYouTubeなどを活用し、幅広い世代に地域情報を発信



【策定】
上飯田地区住みよいまちづくり委員会
※題字は地域の方の手書きで作成いただきました

【問合せ先】
泉区役所福祉保健センター TEL:800-2433 FAX:800-2516
泉区社会福祉協議会 TEL:802-2150 FAX:804-6042
上飯田地域ケアプラザ TEL:802-8200 FAX:802-6800

南北に長く(5.5km)、
田畑が多い
緑豊かなまち

あやめ祭り、
夏祭り(盆踊り)や
どんど焼きなど、
様々な伝統を受け継ぐ
地域行事がある

自治会の活動が
盛んで世代間
交流の場が多い

上飯田地区はこんなまち

福祉施設が多く、
地域と連携した支援活動
(泉サポートプロジェクト
など)が盛ん

様々な支え合い活動
(ふれあいサロン・お助け
クラブなど)がある



上飯田町は
モアイ像の形を
しているよ!



第4期計画の取組・成果

第4期計画はコロナ禍のスタートであったが、様々な制限の中でも地域活動を継続して行った。地域の活動紹介パネルを毎年作成し、地域のお祭り等でPRを行った。

安心・安全・環境にやさしいまちにします

- 公園清掃や各自治会町内会防犯パトロールに加え、警察及び警備会社と連携し夏休み夜間パトロールを実施。
- 「みどり」と花の会」を中心に、小学生と花植え、地域の方々と学校周辺の草取り等の環境整備活動を実施。
- 「災害時要援護者支援事業」「防犯対策」について研修会を実施。
- 「上飯田ワイワイ仲間」によるPR動画(特殊詐欺防止・啓発寸劇)を作成。



防犯パトロール

支え合い・助け合うまちにします

- お助けクラブ(庭木の剪定や草取りなどのボランティア)やふれあいサロン活動を引き続き実施。
- サロンでは参加者の高齢化に伴い、プログラムを工夫しながら継続。
- 泉サポートプロジェクトを活用し地域ケアプラザ及び福祉施設の協力を得て高齢者食事会やお祭り等、送迎を実施。これにより多くの方々が行事に参加できるようになった。



高齢者食事会

世代間交流の場を増やします

- 年に数回、地域と小・中学生とのふれあい交流イベント(グラウンドゴルフ・モルック大会等)やスポーツ交流フェスタを実施。
- 子どもから大人まで皆で楽しめる「ふれあいあやめ祭り」「もみじ祭り」を開催。
- 地域活動をより活性化させるために必要なことや具体的な取組内容について中学生へアンケートを実施。さらにアンケートをもとに「上飯田地区地域福祉保健計画推進委員会」を開催しグループワークを行った。



スポーツ交流フェスタ

上飯田団地地区

第5期 上飯田団地地区
地域福祉保健計画
(令和8年度～令和12年度)

「支え合い、安心して暮らし続けることができる」

上飯田暖地

市営住宅42棟と
市営上飯田第2住宅で
形成されています。

上飯田団地ってこんなまち

地域活動の
担い手が少なく、
役員が何役もかけて
活動しています。

高齢化が進んでいて、
単身の高齢者も
増えています。

人口1,532人、
うち65歳以上高齢者は
1,026人で高齢化率66.97%
(令和7年3月時点)

支援の必要な人、
障害のある方が
多くお住まいです。

めざすまちの姿

上飯田団地地区では、上飯田団地連合自治会や上飯田団地地区社会福祉協議会、民生委員、児童委員、保健活動推進員などが中心となり、「大切にしよう『お元気ですか』声をかけあう関係づくり」を合言葉に見守り活動に取り組んでいます。

日頃から
声をかけあい・支え合い
見守りあっていくまち



誰もが「あいさつ」を
交わせるまち

気軽に活動の場に
参加できるまち

目標 人と人との
つながりを大切にし、
あたたかい人の輪を
広げていく

第5期計画の具体的な取組

- 定期掃除や階段単位での日頃の見守り活動を継続します
- 明るいあいさつ・声かけを行います
- 高齢者の居場所づくりや地域に合ったイベントを継続します
- 上飯田団地連合自治会・上飯田団地地区社会福祉協議会・民生委員等による「見守り会議」を継続します
- 防犯・防災活動を行います



上飯田暖地コミュニティ・カフェ



ペタンク大会



ふれあい暖地マルシェ

サロン活動の紹介

上飯田暖地コミュニティ・カフェ

- 内容 交流会
(お茶のみ、塗り絵、カラオケ等)
- 場所 上飯田団地第1集会所
- 日時 毎週水曜日 10時～15時
※年4回(6・9・12・3月)は「いきいきサロン」として上飯田地域ケアプラザが主催

さわやか脳トレーニング

- 内容 やさしく・楽しく脳いきいき
(体操・言葉遊び等)
- 場所 上飯田地域ケアプラザ
- 日時 第4土曜日
10時～11時30分



上飯田団地高齢者食事会

- 内容 70歳以上の方の食事会
- 場所 上飯田団地第1・3集会所
- 日時 毎月第2月曜日 11時30分～13時
※来られない方には自宅にお弁当をお届けしています。

暖地シニアクラブ

- 内容 カラオケ会
- 場所 上飯田団地第1集会所
- 日時 第1・3木曜日
13時～16時



単一自治会での サロン活動

第11自治会 陽だまりの会

- 内容 おしゃべり、フラワーアレンジメント等
- 場所 上飯田団地第3集会所
- 日時 第3水曜日 10時～12時



第4期計画の取組

(令和3年度～令和7年度)

これまでの取り組みが地域に根付き、日常的に見守り活動への意識が高まっている地域となりました。

- 見守り推進会議を組織化し、地域の見守り活動の報告、情報共有及び意見交換の場として、年4回「見守り会議」を実施しています。
- 「掃除は月1度大切にしよう『お元気ですか』のよい機会」を合言葉にして、団地内の定期清掃を実施しています。あいさつを交わしたり、回覧やちらしの掲示での声かけ、熱中症予防の訪問などの見守りや安否確認を行っています。
- 地域のつながりづくりと健康維持増進のため、「ふれあい暖地マルシェ」、「不用品交換会」、「ペタンク大会」など、楽しんで参加できるイベントを実施しました。
- 毎週サロン活動が行われており、参加を通じて交流が図られ、見守りにつながっています。
- 防犯・防災活動、環境美化活動(清掃・緑化)が進み地域の支え合いにつながっています。

策定 上飯田団地連合自治会・上飯田団地地区社会福祉協議会

■ 泉区役所福祉保健センター
TEL 800-2433
FAX 800-2516

■ 泉区社会福祉協議会
TEL 802-2150
FAX 804-6042

お問合せ 上飯田団地地域支援チーム

■ 上飯田地域ケアプラザ
TEL 802-8200
FAX 802-6800

いちよう団地地区

「こんにちは / 你好 / Xin chào」

みんな笑顔で支え合うまち

いちよう団地地区

第5期 いちよう団地地区
地域福祉保健計画
(令和8年度～令和12年度)

おもいやり
互相体谅
Quan tâm, chia sẻ



**いちよう団地地区の
目指すまち**

银杏団地小区的理想
Khu chung cư Ichou hướng
tới một cộng đồng tốt đẹp

きずな
互相并连
Gắn kết, tình thân



たすけあい
互相帮助
Giúp đỡ lẫn nhau



第4期の取組・成果

目標 互いに見守り、支え合う活動を推進します

- ▶ 移動販売を通して、みんなで声をかけあい、支え合う活動の輪が広がりました。
- ▶ 学援隊による登下校の見守りを行うなど様々なことに取り組みました。

目標 多文化交流を進め、外国につながる人々を支援します

- ▶ 多文化まちづくり工房主催でラジオ体操を開始し、新たなつながりの場が増えました。

目標 国籍や年齢に関係なく、誰もが地域活動に参加できるよう支援し、担い手の発掘につなげます

- ▶ 20年近く継続しているサロンもあり、活発に活動を行いました。参加者も増え、心身の健康の保持・増進につながっています。
- ▶ 「町ぐるみ健康教室」「転倒骨折予防教室」「いちようサロン」では、年間平均参加者数約1,100名が参加し、近隣エリアからの参加もあり、スタッフも楽しみながら実施できています。

策定 いちよう団地連合自治会・いちよう団地地区社会福祉協議会

問合せ 泉区役所福祉保健センター 電話 800-2433

泉区社会福祉協議会 電話 802-2150

上飯田地域ケアプラザ 電話 802-8200

第5期計画の目標・取組

第5期计划的目標・准备 Mục tiêu và hoạt động trong Kế hoạch giai đoạn 5

目標1 住民同士の見守り合い・助け合い活動

目標1 居民之间互相关心互相帮助的活动

Mục tiêu 1 Hoạt động cùng nhau quan tâm, hỗ trợ lẫn nhau giữa các cư dân

学援隊



いちようの会

目標2 地域の安全(防犯、防災)のための活動

目標2 为小区安全(防犯、防灾)的活动

Mục tiêu 2 Hoạt động giữ an toàn cho khu vực (phòng chống tội phạm, thiên tai)



防犯パトロール



防災講座

目標3 住んでる人同士のつながりや交流

目標3 邻居之间的连结和交流

Mục tiêu 3 Hoạt động kết nối, giao lưu giữa mọi người cùng sống trong khu phố



イルミネーション点灯式



団地祭り・福祉祭り



多文化交流



目標4 みんなが気軽に集まれる場所を増やす

目標4 增加大家轻松相聚的场所

Mục tiêu 4 Tạo thêm nhiều nơi cho mọi người có thể gặp gỡ, trò chuyện thoải mái



町ぐるみ健康体操



転倒骨折
予防教室



カラオケ!



団地コーラス
ひまわり



いちようサロン

住民同士の交流や、健康になるための活動を開催！ 举办各种为居民交流和增加健康的活动！
参加したい方は、地区社協まで連絡を！！ 想参加的人请与地区社协联系！！



Sẽ tổ chức các hoạt động giao lưu và rèn luyện sức khỏe!
Quý vị nào muốn tham gia, mời hãy liên hệ đến Hội xã hội khu vực!

中田地区

みんなで支え合う、暮らしやすいまち中田

中田活き活きプラン

第5期 中田地区
地域福祉保健計画
(令和8年度～令和12年度)

地域福祉保健計画は、地域の課題を解決し、地域の支え合いによって誰もが安心して生活できるまちづくりを積極的に推進します。

公園が多く、自然と静けさに恵まれた環境で、子育てや暮らしに最適なまち。

若い世帯の増加により、地域に新たな活気と可能性が広がっている。

誰もが安心して暮らせるまちづくりが進んでいる。

交通の利便性を活かし、より快適で魅力的なまちを目指している。

中田ってこんなまち!

地域行事や学校との連携を通じて、住民同士のつながりを深める取組が進められている。

自然と暮らしが調和する、つながりと変化のまち

近頃 暮らしの中で気になること

- 地域活動の担い手が不足し、活動の継続に支障がある。
- 高齢化が進み、独居や見守りの必要性が増す一方で、活動参加が難しくなっている。
- 若い世代の参加が少なく、世代交代が進まない。

▶ 地域活動の担い手不足と高齢化

- 世代間の価値観の違いや共働き世帯の増加により、地域との関わりが薄れている。
- 子どもと高齢者の接点が減少し、多世代交流の機会が乏しい。
- 季節行事やイベントの実施が難しく、地域の一体感が失われつつある。

▶ 地域のつながりの希薄化と多世代交流の不足

- 買い物や移動手段の不足により、高齢者や子育て世代が不便を感じている。
- 安心・安全な住環境づくりや災害時の対応強化が求められている。

▶ 生活環境の整備

- 回覧・掲示等の情報発信では住民全体に届かず、情報共有が難しい。
- 防災・福祉・災害時対応など、地域での支え合い体制に課題がある。

▶ 情報共有と相互の支え合いが不十分

目指すまちの姿

つながりあふれるまち中田

世代を超えた交流や助け合いを通じて、誰もが「中田の一員」と感じられる地域。

安心して暮らせるまち中田

高齢者や子育て世帯が安心して生活できる支援体制と、安全・快適な住環境の整備。

参加したくなるまち中田

イベントや情報発信の工夫で、誰もが気軽に地域活動に関われる魅力的なまちづくり。

第5期 計画の目標と取組内容

中田がこんなまちになったらいいな

目標1

「中田の一員」となるきっかけをつくらう!



- 子どもたちの地域活動への参加を促進する。
泉わくわく応援隊の活用(連合自治会・単位自治会町内会) など
- 在住者だけでなく、在勤者も含め、気軽に地域活動へ参加できる機会づくり。
なかだフェスティバル・文化祭(連合自治会) など

目標2

多様なつながりの中でみんなのチカラを集め、活かしあおう!



- 地域行事や活動支援を通じて、つながりを深める。
モルック教室・子ども水泳教室(スポーツ推進委員)、キャンプ教室(青少年指導員)、グラウンドゴルフ大会(シニアクラブ)、夏祭り(単位自治会町内会)、かがやき祭り(泉地域活動ホームかがやき) など
- 多世代交流の場をつくり、住民同士の接点を増やす。
シアター中田上映会PJ・中田公園遊び推進PJ(地域福祉保健推進委員会)、中田スポーツ大会(連合自治会) など

目標3

誰もが安心して暮らせるまちづくりに取り組もう!



- 困りごとを地域で支え合うとともに、安心・安全なまちづくりを進める。
活き活きサポートチームPJ(地域福祉保健推進委員会)、防災訓練(連合自治会・単位自治会町内会) など
- 高齢者や子育て世帯への支援。
高齢者サロン・子育てサロン(民生委員児童委員、地区社会福祉協議会)、健康づくり支援(保健活動推進員)、福祉大会(シニアクラブ)、おもちゃ館・子どもの育ち相談・もみじの手(泉地域活動ホームかがやき) など

目標4

地域の様々な情報を積極的に発信・共有しよう!



- 地域全体で情報の発信と共有を充実させる。
情報発信・収集PJ(地域福祉保健推進委員会)、ホームページ(連合自治会・単位自治会町内会ほか)、中田かわら版・YouTube番組「横浜なかだTV」(地区経営委員会) など



中田連合自治会のホームページ

第4期計画(令和3年度～令和7年度)の取組と成果

シアター中田上映会プロジェクト

令和5年度より地域交流の場として開催を開始。5年度は4回、6年度は2回、7年度は2回実施し、上映会を通じて交流の輪が広がっています。



情報発信・収集プロジェクト

高齢者が手軽に情報を得られるよう、スマートフォン活用講座を各自治会町内会の会館(9箇所)で開催しました。



中田公園遊び推進プロジェクト

地区内7公園で開催。子どもたちが楽しく遊ぶとともに、地域のつながりを深めるきっかけとなっています。



【策定】
中田地区地域福祉保健推進委員会

問い合わせ先

- 泉区役所福祉保健センター TEL 800-2433
- 泉区社会福祉協議会 TEL 802-2150
- 踊場地域ケアプラザ TEL 801-2920

しらゆり地区 第5期 しらゆり地区 地域福祉保健計画 (令和8年度～令和12年度)

ほどよく つながる 楽しいまち

しらゆり

目指すまちの姿

しり合いが増え 暮らしやすい ゆるっとおでかけ りかい広まる楽しいまち

しらゆり地区は
こんなまち

泉区東南部に位置し、5つの自治会町内会がある人口約5,900人の戸建中心の住宅地です。しらゆり公園には泉区唯一の市営プールなどの施設があり、富士山がきれいに見える暮らしやすい緑豊かなまちです。

主な活動拠点 しらゆり公園 しらゆり集会所 白百合愛児園 田向公園

第4期計画の取組と成果

ゆるやかな見守り活動を継続、地域全体に活動が広がっています。

しらゆり助っ人隊(SST)

日々の暮らしの手助けや見守りに関する相談を受け、年間150件を超える活動をしています。



ひとり暮らし高齢者食事会

継続的に参加する方が多く、安心のよりどころになっています。みんなで集まって食事することで、顔の見える関係を作っています。



サロン等をきっかけに地域住民の交流がより盛んになりました。

ひよっこ教室

子育て世代の交流の場として、親子で抱え込まずに「地域で子どもを育む」ための大切な場所となっています。



サロン・チートイツ

楽しく参加できるサロンとして継続して開催し、大切な交流の場となっています。



健康づくりを通して、顔の見える関係が広がりました。

町ぐるみ健康体操教室 すこやかクラブ21

健康づくりを推進する機会として、地域全体の健康意識を高まっています。



しらゆりの坂に
鍛えられて、
足腰丈夫です!



第5期計画の目標と取組内容

目標1

子どもから大人まで気軽に交流でき、地域の活動に参加できるまちにします!



- ①自分にもできると思える活動、身近な場所で自由に気軽に参加できるサロンや居場所づくり
- ②子どもが楽しく活躍できる活動の充実(夏祭り、防災訓練、泉わくわく応援隊、ラジオ体操など)
- ③地域の伝統的な行事を大切に引き継いでいくために、内容ややり方を工夫していく(納涼盆踊り、文化祭、体育祭など)
- ④子育て世代が参加しやすく、意見が反映された活動づくり(ひよっこ教室、放課後の居場所づくり、子ども会同士のネットワーク支援など)

目標2

ちょっとした相談や手助けができる人が身近にいるまちにします!



- ①安心して相談できるまちづくり(ひとり暮らし高齢者食事会、ひよっこ教室など)
- ②住民同士が助け合える活動の充実(しらゆり助っ人隊、防犯パトロール、清掃活動など)
- ③災害が起きても近所で支えあえる顔の見える関係づくり(向こう三軒両隣のほどよい関係づくり)

目標3

気軽に外出できるまちにします!



- ①身近な場所での体操教室などの開催を通じた外出するための体力づくり(すこやかクラブ21、町ぐるみ健康体操教室、体力測定会の実施、スポーツを通じた交流など)
- ②移動販売の実施や外出へのサポートを推進し、誰でも気軽に外出できる仕組みづくり
- ③外出の手助けになる休憩できる場所づくり(ベンチ・あずまの設置、フリースペースなど)

目標4

必要な情報が届くまちにします!



- ①ICT(情報通信技術)を活用し、早く・広く情報が行き届く仕組みづくり(LINEなどを使用したサロン・イベント情報の周知)
- ②掲示板、広報誌、のぼり旗を用いるなど様々な手法による情報周知
- ③気軽に話し合えるネットワークづくり



お問合せ <しらゆり地域支援チーム>

【策定】
しらゆり地区
社会福祉協議会

■ 泉区役所福祉保健センター
TEL: 800-2433
FAX: 800-2516

■ 泉区社会福祉協議会
TEL: 802-2150
FAX: 804-6042

■ 踊場地域ケアプラザ
TEL: 801-2920
FAX: 801-2923

第3章 区計画

1 区計画とは

区計画は、区域に共通する課題や地区だけでは解決できない課題の解決に向けて、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが、区民や関係機関と協働した取組を進めていくための計画です。

基本理念の実現に向け、区計画では3つの「推進の柱」を設定し、さらに「重点項目」、「行動計画・取組」を定めています。

2 第4期計画での成果と課題

推進の柱1 健やかに過ごせるまち	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 様々な機会をとらえ、幅広い年代へ健康づくりや介護予防の周知、啓発の働きかけを行いました。 高齢期の自分らしい暮らしや、もしもの時に備えた情報発信やツールの普及、充実が進みました。 医療や介護などの関係機関の相互理解とネットワーク作りが広まりました。 災害時に区民一人ひとりが取り組めることや、地域で助け合う備えにつながるイベントや出前講座を実施し、自助、共助の活動支援が進みました。また地域で安心して子ども達が過ごせるための取組が充実しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 区民一人ひとりの健康への意識を実際に行動へつなげていくため、より身近な場所での健康づくり、介護予防に取り組める環境整備が必要です。 情報発信やツールを通じて、区民一人ひとりが、高齢期の暮らしやもしもの時の医療ケアについて考え、あらかじめ準備・行動できるよう促す必要があります。 本人の意思を尊重しながら必要な支援を行うため、医療と介護などの支援者が連携し、一体的なケアが提供できるような体制が必要です。 発災時、地域全体が協力して対応できるよう地域住民と関係機関、行政のそれぞれの役割や機能についての相互理解を進める必要があります。

推進の柱2 必要な支援が届くまち	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 子育てや介護、障害など様々な相談先を周知し、気軽に相談できる体制が充実しました。特に、専門職による妊娠時期から切れ目のない子育て支援の実施や地域住民の認知症や障害など、サポートが必要な方々への理解促進に取り組みました。 関係機関の間で「顔の見える関係づくり」を進め、ネットワークの構築に取り組みました。また、多様化、複雑化する課題に対応するため、各分野で研修が行われました。 地域での困りごとの解決に向けて、多職種・多様な主体の連携が深まりました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとを抱える人が確実に相談支援機関につながるために、地域の中で「気づき」、「つなげる」見守り力を高める取組が必要です。 相談内容が多様化、複雑化しており、制度の狭間に落ちることなく、適切な相談支援につなぐために、幅広い分野での連携が求められます。 地域課題を把握するために、個別支援や地域の声を分析し、地域課題の解決に向けた取組を検討することが求められています。

推進の柱3 人と人、活動と活動がつながるまち	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 子どもやその保護者、障害のある方や高齢者など、地域に住んでいる人たちがお互いにふれあう機会を通じて「顔の見える関係づくり」が進んできています。 コロナ禍により地域活動は大きな影響を受けました。こうした中で、活動の再開に向けた支援を進めるとともに、イベントなどを通じて、地域活動の周知に取り組みました。 地域活動の立ち上げにつながるボランティア講座を行うなど、地域のニーズにあわせた支援に取り組みました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 「支える側」「支えられる側」といった垣根を越えた関係づくりのため、多様性についての理解促進が必要です。人口減少や高齢化が進む中でも、地域活動への参加者や担い手の確保につなげていくため、住民同士の相互理解を進め多様な人々が交流する機会を創出していく必要があります。 地域活動への参加のきっかけとなるよう、あらゆる世代に情報を届けることが求められます。 地域活動の担い手も高齢化が進んでおり、多世代、多様な主体が担い手として地域に関われる取組が求められています。

基本理念 互いに支え助け合う! 誰もが安心して暮らせるまち

推進の柱 1 健やかに過ごせるまち	
重点項目1	健やかに暮らし続けるための取組を進める
重点項目2	自分らしく過ごせる地域づくりを進める
重点項目3	みんなで安心・安全な地域づくりに取り組む

推進の柱 2 必要な支援が届くまち	
重点項目1	困りごとを支援につなぐ
重点項目2	みんなで支援する仕組みを整える
重点項目3	一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える

推進の柱 3 人と人、活動と活動がつながるまち	
重点項目1	多様性を理解し、つなげる機会を作る
重点項目2	参加する人を増やす
重点項目3	担い手を増やす

推進の柱 1

健やかに過ごせるまち

目指す姿

- あらゆる世代に健康づくり・介護予防の意識が高まり、区民一人ひとりが活動に取り組んだ結果、健康寿命の延伸につながっています。
- 健康づくり・介護予防の社会資源が整い、活動が活性化されています。
- 支援が必要になっても意思が尊重され、自分らしく地域で暮らし続けることができています。
- 地域全体で防災の取組が進み、災害時に支援が必要な方を支える仕組みが整っています。
- 妊娠期から学齢期まで安心して子育てができる環境や取組が充実しています。



重点項目1：健やかに暮らし続けるための取組を進める

高齢化に伴い、要支援、要介護認定者数が増加しています。いつまでも住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けるためには一人ひとりが健康づくりや介護予防に取り組むことが求められます。若い世代からの定期健診や、生活習慣病改善に向けた取組、加齢による生活機能の低下を予防する介護予防・フレイル予防など、ライフステージに合わせた取組の普及啓発や情報提供とともに、地域での活動支援や環境整備を進めていきます。

行動計画

1 将来を見据えたライフステージに合わせた健康づくりの推進

- (1) 自ら健康づくり・介護予防に取り組むための区民意識を醸成します。
- (2) 地域などでのがん検診や若い世代からの生活習慣病予防、歯科検診の定期受診勧奨など、セルフケアの取組への支援を実施します。
- (3) 乳幼児健診の保護者への健康づくりの啓発を実施します。
- (4) 受動喫煙防止や禁煙相談等に取り組めます。

2 地域での健康づくり・介護予防の活動支援や環境整備

- (1) 地域住民主体の健康づくり・介護予防の活動を支援します。
- (2) 健康づくり・介護予防に継続的に取り組める環境を整備します。

評価指標	現状値
健康づくりや介護予防の取組に参加している人数	15,320人
主な内訳	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり講座、食生活相談生活習慣改善相談の参加人数 ・介護予防の講座等や地域で行われる高齢者の健康づくり活動への参加人数 ・喫煙防止教室の参加人数 ・乳幼児健診における骨健康度測定に参加した人数 など 	

関連データ：【参考】資料編 P69 1-(1)、(2)
P73 2-(1)、(2) 参照



コラム 横浜市国民健康保険特定健診

～健康寿命を延ばすための健康づくりを進める～

横浜市国民健康保険では、内臓脂肪の蓄積に起因する高血圧症、脂質異常症、糖尿病等の生活習慣病リスクを見つけ、生活習慣改善、病気の予防を目的とする「特定健康診査（特定健診）」を実施しています。

特定健診は横浜市国民健康保険に加入している40歳から75歳の誕生日を迎える方（75歳になる方は誕生日の前日まで）が対象となります。費用は無料です。

特定健診を受診するには受診券が必要になります。受診券は4月1日時点で横浜市国民健康保険に加入している方には5月中旬頃に泉区保険年金課から郵送されます。（4月2日以降にご加入された方は受診券の発行申請が必要になります。）

ぜひご自分の健康状態を確認するために、受診してください。



コラム フレイル予防

～フレイ！フレイ！フレイル予防！～

フレイルとは？

年齢を重ねたり、病気になったりすることで、体力や気力、認知機能など、からだところの機能（はたらき）が低下し、将来介護が必要になる危険性が高まっている状態をいいます。



フレイルのはじまりは日頃の小さな変化から

からだ・こころ・社会生活面（外出、人や社会とのつながり）など、さまざまな要素が互いに影響し、フレイルに至ります。

フレイル予防は、小さな変化に気づき、早い段階から

「4つの柱：運動・口腔ケア（オーラルフレイルの予防）・栄養（低栄養防止）・社会参加」の取組を日常生活で一体的に取り入れ習慣化することが大切です。まずは、運動、栄養など、取り組みやすいものから日常生活に取り入れてみましょう！

また、泉区内では、区役所や地域ケアプラザ、薬局等でフレイル予防等について学べる講座や教室等を開催しているほか、身近な地域で仲間と一緒にフレイル予防に取り組む活動等もあります。ぜひ、自分にあった活動を見つけて、フレイル予防に取り組みましょう！



「フレイ！フレイ！フレイル予防！」は横浜市のフレイル予防推進の愛称です。

コラム オーラルフレイル

「オーラルフレイル」とは、加齢等と共に起こるお口の機能（はたらき）の低下のことで、そのはじまりは、ささいな衰えです。

「むせる頻度が増えた」「食べこぼすようになった」「滑舌が悪くなった」「硬いものが噛みにくくなった」など、数年～1年前と比べてこのような症状や頻度が増えたら、もしかすると「オーラルフレイル」かもしれません。

お口の元気は、からだの元気。「オーラルフレイル」を予防することは「フレイル」を予防することにつながります。お口の機能が弱ってきたと感じたらまたはそれ以前から、口腔体操（パタカラ体操等）を行うことや定期的な歯科検診の受診が効果的です。



参考：オーラルフレイル Q & A 著書 平野浩彦、飯島勝矢、渡邊裕 / 日本歯科医師会リーフレット「オーラルフレイル」

参考：日本歯科医師会 HP「オーラルフレイル対策のための口腔体操」

泉区歯科医師会では、通院が困難な方へ歯科医院への通院の架け橋としての在宅歯科医療連携室を設けています。お電話での口腔ケアやむし歯や歯周病、入れ歯でお困りなどの事柄の相談内容により、訪問可能な歯科医院の紹介を行っています。

泉区在宅歯科医療連携室
<https://www.izumi-da.com/visit.php>



重点項目 2：自分らしく過ごせる地域づくりを進める

いつまでも自分らしく生活していくためには、周囲の理解と支えや、個人の尊厳や権利が守られる地域づくりが求められています。支援が必要になった時に、自身が望む医療やケアが受けられるよう、事前に様々な選択肢を知り、自ら決定できることも重要です。

また、その想いを尊重しながら必要な支援を行うためには、医療と介護などの支援者が連携し、一体的なケアが提供できるような体制も必要です。

行動計画

1 自分の想いや価値観を尊重した生活に向けた準備・行動の促進と支援
(1) エンディングノートの普及啓発等を通じた、高齢期の「自分らしい暮らし」の実現に向けた自己決定の支援を行います。 (2) 在宅療養生活における多様な選択を可能にするため、区民への情報発信を行います。
2 個人の権利と尊厳を守るための仕組みづくりと制度の活用促進
(1) 高齢者や障害者の権利擁護や成年後見制度等の理解を進めます。 (2) 高齢者や障害者の財産や権利を守り、安心して日常生活が送れるよう相談・契約によるサービスを行います。 (3) 高齢者や障害者、児童への虐待の防止や、早期発見できるよう区民への啓発を推進します。 (4) 関係機関との連携により高齢者や障害者、児童への虐待の対応を適切に行います。
3 在宅での生活を支えるための連携体制の構築
(1) 在宅療養を支える医療・介護関係者の育成を進め、多職種の連携体制を強化します。 (2) 在宅医療や介護の連携体制をより円滑に整えられるよう、泉区在宅医療連携拠点と連携して支援を行います。 (3) 在宅歯科医療連携室と連携し、市民向けに情報発信を行います。

評価指標	現状値
成年後見制度などの制度や仕組みの理解につながった人数	227人
主な内訳	
・成年後見制度など権利擁護に関する制度の講座への参加人数 ・泉区社協あんしんセンター※への相談数 など	

※泉区社協あんしんセンター（泉区社会福祉協議会）・・・認知症高齢者や障害者が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助や定期訪問・金銭管理サービスの提供等を行う「日常生活自立支援事業」を実施しています。

評価指標	現状値
在宅療養を支える関係者間での情報共有や研修の場の実施回数	7回
主な内訳	
<ul style="list-style-type: none"> ・泉区在宅医療連携拠点における多職種連携会議など、医療・介護関係団体間の相互理解や区域での連携促進の実施回数 ・在宅医療介護連携研修の実施回数 ・泉区在宅医療連携拠点と共に行う研修や事例検討会の実施回数など 	

関連データ：【参考】資料編 P69 1-(1)、(2)
P73 2-(1)、(2) 参照

コラム 人生会議（アドバンス・ケア・プランニング：略称 ACP）

人生会議（アドバンス・ケア・プランニング：略称 ACP）とは？

もしものときに、どのような医療やケアを望むのか、前もって考え、家族や信頼する人、医療・介護従事者たちと繰り返し話し合い、共有することを「人生会議」（アドバンス・ケア・プランニング：略称 ACP）といいます。

人生会議をもっとわかりやすく！

「人生会議」や「もしも手帳」に関する短編ドラマを制作し、YouTube で公開しています。ぜひ、ご覧ください。



働き盛り世代（壮年期）編 ～みどりの見える街で～



稔の世代（高齢期）編 ～みなとの見える街で～



▶なぜ、必要なのか？

人は誰でも、命に関わる大きな病気やケガに見舞われる可能性があります。

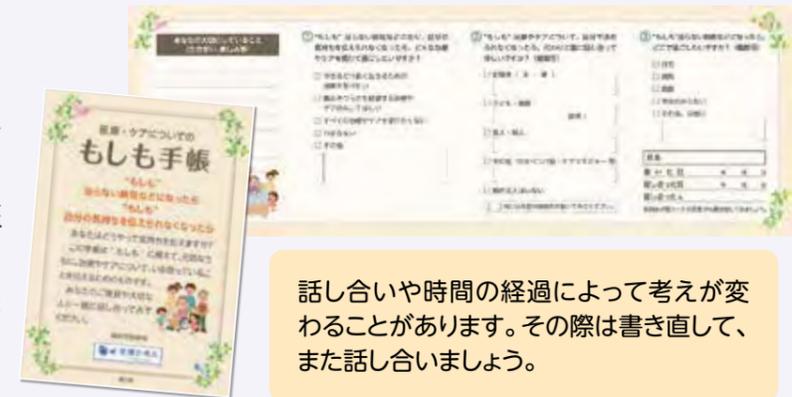
重篤な状態になると、約70%の方が、これからの医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えることができなくなるといわれています。

前もって、人生会議をすることで、もしものときに、あなたの望むような医療やケアを受けられる可能性が高くなります。

コラム もしも手帳・私のおぼえがき・わたしの人生計画帳

人生会議のきっかけに“もしも手帳”

「もしも手帳」は、簡単な3つの質問に答えることで、もしものときにどのような医療やケアを望むのかを前もって話し合い、思いを伝えるための手帳です。



話し合いや時間の経過によって考えが変わることがあります。その際は書き直して、また話し合いましょう。



“私のおぼえがき”

からだの状態や緊急連絡先などを医療・介護の関係者と共有するための手帳です。自分の医療や介護の情報をわかる範囲で記入ください。

お薬手帳ほどのサイズです。

万が一、外出先で急に具合が悪くなってしまった時などに、「私のおぼえがき」を持ち歩いていると、駆けつけた救急隊員や搬送先の病院にスムーズに情報を伝えることができます。

もっと書きたい方は、泉区エンディングノート「わたしの人生計画帳」

「わたしの人生計画帳」は、これまでの人生を振り返って、これからの人生をどう歩んでいきたいか、思いを記すノートです。

「もしもの時」への備えだけでなく、自分自身や身の回りの大切なひととのつながりを見つめ直し、前向きに暮らすきっかけづくりに活用していただければ幸いです。



もしも手帳、私のおぼえがきは、泉区役所や地域ケアプラザ等で、無料でお配りしています。
わたしの人生計画帳は、地域ケアプラザ等が行う講座を受講された方にお渡ししています。

重点項目 3：みんなで安心・安全な地域づくりに取り組む

平時から災害時まで、地域で安心・安全に暮らすためには、地域住民と行政、関係団体が連携して防災、防犯に取り組んでいくことが重要です。平時から、区民一人ひとりの防犯・防災意識の向上に取り組むとともに、災害時に避難が必要な方を支援できる仕組みを充実していくことが求められています。

また、子どもの安全を守るための取組や、放課後の居場所づくりを整えるなど、日常生活においても、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

行動計画

1 安心・安全に暮らせる環境の整備と推進

- (1) 市民生活を守り、災害に強い、安心・安全なまちづくりを進めます。
- (2) 地域での防犯、防災の意識を高めるための啓発を行っていきます。
- (3) 幅広い世代が災害を自分事として考えるきっかけを作り、地域の防災活動への参加に繋がります。
- (4) 高齢者や障害児・者、乳幼児、妊産婦など、災害時に手助けが必要な方（災害時要援護者）の把握や見守り、避難支援の仕組みづくりを地域と共に進めます。
- (5) 震災発生時に、円滑な開設・運営が可能となるよう地域防災拠点の取組を支援します。
- (6) 避難生活に支援等が必要な要援護者の受け入れが円滑に行えるよう福祉避難所との連携や充実を図ります。
- (7) 放課後の安心・安全な居場所づくりを進めていきます。
- (8) 不慮の事故から子どもの命を守るため、事故予防や救急医療のかかり方等の普及啓発を進めます。

評価指標	現状値
地域の防犯、防災等の取組への参加人数	3,556 人
主な内訳	
・防犯講習会の参加人数 ・地域防災拠点運営訓練、福祉避難所運営訓練の参加人数 など	



コラム 防犯に関する取組

泉区では、地域での自主防犯の取組に区役所と警察がともに連携して活動することで、空き巣や自転車・オートバイ盗などに代表される街頭犯罪が起きにくい、犯罪に強いまちづくりを進めています。また、振込詐欺に代表される特殊詐欺に対しても、啓発チラシ・物品の提供や講習会での情報提供等を通じて被害防止に取り組んでいます。

防犯講習会

地域と警察・区役所が合同で防犯講習会を開催します。犯罪の手口や防止のための対策のポイント等を地域の中で共有することにより、地域の防犯意識の向上と防犯力の強化を図っています。



防犯パトロール

地域と警察・区役所が合同で参加するパトロールを実施します。犯罪者は姿を見られることを嫌うので、防犯パトロールを実施し、「人の目」を街の中に確保することにより、街頭犯罪を未然に防止します。

啓発物品等の提供

防犯を呼びかける、のぼり旗や車両ステッカー等の啓発物品を希望する地域の方々に提供しています。のぼり旗をまちに掲示したり、ステッカーを活用することで、犯罪意識の高いまちであることを犯罪企図者にアピールし、犯罪の発生を未然に防止します。



コラム 福祉避難所

大規模災害により、自宅で生活できなくなった場合は地域防災拠点（指定避難所）に指定されている小・中学校等で避難生活を送ることになります。

地域防災拠点では、高齢者、障害児・者、妊産婦、乳幼児などの要援護者向けのスペースを確保することになっており、要援護者は周囲の支援を得て生活することとなりますが、特別な配慮が必要等の事情により、避難生活を継続することが難しい場合もあります。このような要援護者を受入れるための二次的な避難所が「福祉避難所」です。

「福祉避難所」は、区役所と協定を締結している社会福祉施設など（高齢者施設、障害者施設、地域ケアプラザなど）に開設し、避難にあたっては専門職（保健師）などが、本人の状況や要介護認定の有無などを確認し、必要性を判断します。

※特別養護老人ホームなどへの緊急入所について

大規模災害時、介護保険の要介護認定を受けている方のうち、地域防災拠点や自宅での生活が困難であり、施設職員による介助が必要な方を対象に、特別養護老人ホームなどで緊急入所による受け入れを行うこともあります。

コラム 災害時要援護者支援

災害時要援護者とは高齢者や障害児・者、妊産婦や乳幼児等の災害時に支援が必要な方をいいます。過去の大きな災害では、要援護者の方への支援、支援のための連携等が不十分であったことがわかっています。平成23年3月の東日本大震災においても、被災者全体に比べ、要援護者の方の被災率が高く、避難を行うための情報伝達、安否確認が円滑に進まなかったことなどの課題が浮き彫りになりました。

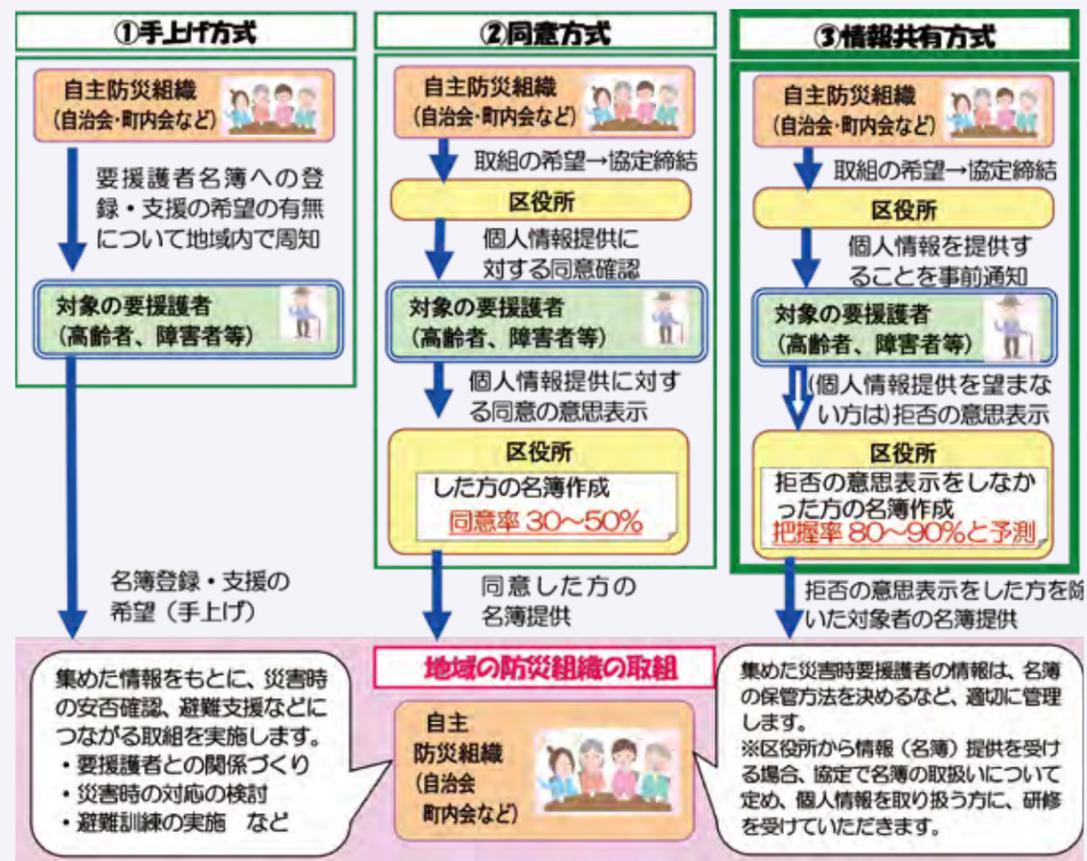
東日本大震災時の犠牲者の約64%が高齢者
東日本大震災時の障害のある方の死亡率(2.06%)は被災住民全体の死亡率(1.03%)の約2倍

災害時要援護者の方々が災害から身を守るためには、本人、家族などによる「自助」に加え、地域による安否確認や避難支援等の「共助」の果たす役割が重要です。阪神・淡路大震災では、自力や近隣住民等によって救助された人の割合は90%を超えています。(出典：(社)日本火災学会 兵庫県南部地震における火災に関する報告書)

平時から要援護者との顔の見える関係づくりや地域で支えあう体制づくりをしておくことが、いざという時の助け合いにつながります。

災害時要援護者支援の取組は、対象者を把握することから始まります。横浜市では、3つの方式から地域の皆様が活用しやすい方式を選択いただき、災害時要援護者を把握できるよう支援しています。地域の実情に合った方法をご検討ください。

名簿作成・提供の流れ



コラム 個別避難計画

災害時に避難に支援が必要な方一人ひとりについて、災害が発生したときにスムーズに避難支援が行えるよう、

- ①どこに避難所に避難するか
- ②誰が避難支援をするか

などをあらかじめ決めておくものです。

取組の背景は、近年の風水害における全体の死者のうち、全国で令和元年度台風第19号では約65%、令和2年7月豪雨では約79%が65歳以上の高齢者でした。また、障害のある方についても、被害にあった事例が多くありました。これを踏まえ、令和3年5月に災害対策基本法が改正され、個別避難計画を作成することが市町村の努力義務となりました。

横浜市においても令和6年度から、お住まいの場所がハザードマップ上の洪水浸水想定区域や、即時避難指示対象区域であること等から個別避難計画の作成が必要とされる方々に対し、「個別避難計画作成に係る同意確認書」等の書類を発送し、同意をいただいた方で、身体状況等の優先度の高い方から順に個別避難計画を作成しています。

個別避難計画はご本人を支援する福祉専門職等(ケアマネジャー、計画相談員)と作成することを想定していますが、ご本人やご家族が作成する場合があります。また、必要に応じて、関係者(例：家族・親族・知人・福祉事業者・行政・民生委員・自治会町内会など)と情報共有しながら、作成します。

コラム 横浜市避難ナビ

横浜市では、災害時の避難行動をサポートする公式の防災アプリを提供しています。スマートフォンやタブレットにインストールすることで、どなたでも利用できます。

家族構成や住まいの状況を踏まえ、避難までの行動を時系列で整理する「マイ・タイムライン」をアプリ上で作成しておくことで、「マイ・タイムライン」に連動した避難情報を災害時に受け取ることができるため、適切な避難行動のタイミングを逃すことなく対応できます。

また、開設中の避難場所や避難ルートを確認もできるため、災害時でも落ち着いて行動することができます。



平時の機能

- ・ハザードマップや避難場所の確認
- ・マイ・タイムラインの作成
- ・AR機能による浸水体験
- ・防災学習コンテンツの利用

災害時の機能

- ・マイ・タイムラインと連動した避難情報の通知
- ・避難場所の開設状況の確認
- ・避難場所までのルート確認



横浜市避難ナビ紹介 Web ページ

推進の柱 2

必要な支援が届くまち

目指す姿

- 生活の中での困りごとを一人で抱え込まず、必要な支援を受けることで、生涯に渡って住み慣れた地域で安心して暮らすことができます。
- 複雑な課題に対しても、関係機関が相互に連携しながら、包括的に適切な支援が行われています。
- 個々の困りごとから地域特有の課題を把握し、それを地域住民と関係機関、行政が連携して解決する取組が行われています。



重点項目1：困りごとを支援につなぐ

生活の中での困りごとを抱えた方が、適切に相談や支援につながるために、様々な支援制度や身近な相談窓口を広く周知します。そうした取組によって専門の相談窓口や関係機関とつながることが必要です。

また相談先がわからない方や、自ら相談することが困難な方が孤立せずに支援につながるためには、地域での見守りの輪が広がることが重要です。

行動計画

1 制度と相談窓口を周知する

- (1) 困りごとを相談できる様々な窓口や制度を、住民や地域活動団体に周知します。
- (2) 地域ケアプラザ等の地域に身近な場所で様々な困りごとの相談対応を行います。
- (3) 困りごとの内容に応じて、専門機関、専門職による相談対応・情報提供を行います。

2 地域での見守りを推進し困りごとを支援につなぐ

- (1) 民生委員・児童委員等が見守り活動を安心して続けられるよう支援します。
- (2) 子育てに優しいまち泉区へ向けた温かい風土づくりと支援力の向上を図ります。
- (3) 養育者の困りごとを傾聴し必要な支援につなげられる子育てボランティアを育成します。
- (4) 生後4か月までの乳児がいる全ての家庭を地域の人（こんにちは赤ちゃん訪問員）が訪問することで、日常的な交流のきっかけをつくり、地域で子どもを見守るまちづくりを推進します。
- (5) 認知症の人と家族が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、地域での見守り体制を推進します。

評価指標	現状値
専門機関等への相談件数	26,879件
主な内訳	
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者生活支援センター、基幹相談支援センター、各ケアプラザ等への相談件数 ・地域子育て支援拠点における横浜子育てパートナーへの相談件数 ・生活困窮者自立支援制度における新規相談件数 など 	
評価指標	現状値
見守り活動の中から困りごとを相談されたときの連絡調整回数	8,671件
主な内訳	
<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員等が困りごとを相談先につないだ件数 ・子育てボランティアやこんにちは赤ちゃん訪問員などが相談先につないだ件数 など 	

関連データ：【参考】資料編 P70 1-(3)、(4)
P73 2-(1) 参照

コラム 子育てに優しいまち泉区を目指して

～泉区の子育て支援～

地域には、子育て世代を歓迎し、応援してくれる施設・団体が数多くあります。居場所、子育て相談、情報発信、イベント・講座、預かりなど、幅広い子育てニーズに対する支援を展開しています。

また、支援者が細やかな支援ができるように、支援者間の顔の見える関係づくりを大切にしたいという思いから、区域の子育て支援連絡会を年2回開催し、エリア別ネットワーク会議も開催しています。子育て支援のネットワークを構築し、泉区で安心して子育てができるためには何が必要か、子育て支援関係者・関係機関の方々との意見交換や、実際に子育てしている方へのアンケートを踏まえ、各機関が繋がりあいながら、子育て支援を展開しています。

泉区地域子育て支援拠点「すきっぴ」

いずみ中央駅に隣接した地域子育て支援拠点「すきっぴ」は、未就学児と保護者、妊産婦やそのご家族、地域で子育てを応援している方が、交流できる場所です。

イベント、講座や横浜子育てパートナーの子育て相談など、幅広いニーズに応えるための支援を展開している他、子育て支援に関する人材育成や、子育て支援のネットワークを構築するため各機関同士の繋がりをコーディネートしています。



親と子のつどいの広場

0～3歳くらいまでのお子さんが遊べ、保護者も自由にすごせる場所です。子育て中の方や子ども同士のつながりを大切にしています。



ピッコロひろば



にこにこパーク



ぽっぽの家

保育・教育施設等における地域子育て支援

泉区内の保育所や幼稚園、認定こども園には、在園していない子どもやその保護者などに向けて、園庭や施設の開放、育児相談や交流保育、育児講座など、地域に開かれた子育て支援を実施している園がたくさんあります。



コラム 子育て応援マーク

子育て応援マークは、地域の人からの「子育てしている人を応援したい」、ママ・パパからの「子育てをあたたかいまなざして見守ってほしい」というメッセージが込められています。

子育て世代をあたたかく見守り、助け合って暮らしていけるよう、これからも泉区の地域の方々と、子育て関連施設と子育て中の親子がつながりあいながら、「子育てに優しいまち泉区」を目指します。

地域の人からの「子育てしている人を応援したい」

ママ・パパからの「子育てをあたたかいまなざして見守ってほしい」

コラム パマトコ

オンライン申請

子育て応援アプリ
パマトコ
YOKOHAMA

電子母子健康手帳

子育て応援アプリ「パマトコ」は、子育てに役立つ情報の収集とともに、さまざまな手続をオンラインで行うことができるアプリです。

イベント検索

パマトコ

施設検索

スマートフォンやパソコンから手軽に確認できるのでとっても便利！

「手続のために区役所に行くのが面倒」「子どもたちにぴったりな 近くのイベント情報がほしい」

このような子育て世帯のお悩みを解決するためのツールとして、情報・機能を集約しています。

手続きの他にも、泉区の「両親教室」、「園庭開放」、「保育・教育コンシェルジュの相談予約」、「各種イベント」などの情報を発信しています。

重点項目2：みんなで支援する仕組みを整える

サポートが必要な方々が積極的に社会参加できる機会の創出や、子育て中の方や介護者が困りごとを抱え込んで孤立しないための支援を充実させることが大切です。

また支援を必要としている方へ、相談支援機関がいつでもきめ細かい対応が出来るように、専門性や対応力を高める取組が必要です。また支援機関のネットワークづくりを進めることで、あらゆる困りごとを受け止めて対応できる仕組みづくりを目指します。

行動計画

1 サポートが必要な方々への支援の推進
<ul style="list-style-type: none"> (1) こころの病や精神疾患についての理解を広め、当事者の社会参加を支援します。 (2) 日本語が苦手な外国籍区民の支援をします。 (3) 一人では外出が難しい方の移動手段に関する支援や情報収集・発信、相談調整を行います。 (4) サポートが必要な方を支える家族等の介護者を支援します。
2 支援者のスキルアップ、対応力向上
<ul style="list-style-type: none"> (1) 様々な相談に対応できるよう、関係機関職員等を対象とした研修等を開催し、対応力の向上を図ります。 (2) 地域支援に携わる区職員等のコーディネート力向上を目的とした研修等を実施します。 (3) ひきこもり等の困難を抱える方やその家族への支援に向けた地域の理解を促進します。 (4) 保育の質の向上を図り乳幼児の健全な成長を促進します。 (5) 生活にお困りの方が相談・支援につながりやすい地域づくりを進めます。
3 地域・関係機関・行政のネットワーク構築と連携強化
<ul style="list-style-type: none"> (1) 認知症が重症化する前に適時適切に医療・介護が受けられる仕組みを作ります。 (2) 障害のある方への支援の充実のため、関係者間の情報共有を進めます。 (3) 不登校やひきこもり等の困難を抱える方やその家族への支援に向けた地域と関係機関、行政等との連携を深めます。 (4) 学校、家庭及び地域が連携して、それぞれが持つ教育機能を発揮することで、青少年育成と地域における活動の充実を図ります。 (5) 子育ての課題について多様な視点から解決できるよう、ネットワーク構築を進めます。 (6) 区役所内をはじめ、区社会福祉協議会・地域ケアプラザなど関係機関・団体等との連携を強化します。 (7) 地域と関係機関、行政との情報共有や地域特性の把握・共有を進めます。

評価指標	現状値
地域・関係機関・行政のネットワーク構築と連携強化に向けた取組回数	149回
主な内訳	
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校やひきこもりに関する連絡会 ・高齢者虐待防止連絡会 ・区民生委員児童委員協議会での研修 ・泉区地域福祉保健計画推進協議会 など 	

コラム 障害児・者社会参加促進支援事業

泉区では、障害や疾病のある方もない方もお互い尊重しあい、誰もが地域で安心して生活できる地域社会の構築に向けて、障害児・者社会参加促進支援事業に取り組んでいます。

令和2年度から区内の障害福祉事業所を巡る「泉ふれあいシールラリー」を行っています。

市内でも泉区は障害福祉事業所が多く、障害のある方が仕事をしたり、日中を過ごしたりする事業所が70か所以上あります。

障害のある方が日頃活動している区内の障害福祉事業所に地域の方に足を運んでいただき、普段の生活や活動の一端を知っていただくための取組です。身近な地域で、障害のある方と地域の方が交流し、相互理解を深めていくきっかけになればと考えています。また、泉区役所区民ホール、市営地下鉄立場駅では障害福祉事業所が自主製品の販売、市営地下鉄戸塚駅では泉区産農産物の販売を行っています。販売をとおり、障害福祉事業所の製品を知っていただき、区民の方との交流や相互理解につなげています。



コラム 泉区障害福祉自立支援協議会

泉区障害福祉自立支援協議会は、障害のある方が地域で安心して生活するために、地域の課題を共有し、解決に向け協働する場です。基幹相談支援センター「かがやき」と生活支援センター「芽生え」、区役所が事務局となり、障害児・者に関係する機関や保健、医療、教育、就労などの機関や当事者が参加しています。全体での協議の他に、相談部会、グループホーム部会、重心（重症心身障害児者）部会、日中活動部会、精神保健福祉部会が専門部会として活動しています。

コラム ひきこもり等の困難を抱える若者の支援

令和4年度に実施した「横浜市子ども・若者実態調査／市民生活実態調査」によると、学校での人間関係や就職活動のつまづきなどによって、ひきこもり状態になっている15歳から39歳までの若者は、市内に約13,000人いると推計されています。このような若者は、社会とのつながりが希薄なうえ、相談先があること自体を知らないことも多く、本人・家族共に支援機関等に相談できず抱え込み、ひきこもり状態が長期化・深刻化している現状があります。

こうした背景から、区役所では月2回よこはま西部ユースプラザによる、「ひきこもり等の困難を抱える若者の専門相談」を実施しています。また、泉区と西部ユースプラザ共催により、ひきこもり等の困難を抱える若者の理解を深めるセミナーと個別相談会を開催しました。

また、令和5年度に実施した調査^{*}によると、不登校児童生徒数については、全国で346,482人（5年間で約2.1倍）、横浜市では9,775人（同約1.7倍）、泉区では388人（同約1.8倍）に増加しています。不登校児童生徒の居場所として、教育委員会では公民連携による教育支援センターとしてハートフル西部を令和5年度に泉区内に開設しました。また、子どもや若者の居場所づくりに関わる団体で構成する泉区子ども若者の居場所連絡協議会（任意団体）が活動しています。

泉区では支援を必要とする若者やそのご家族を早期に適切な支援につなげる取組を進めています。

^{*}全国は「児童生徒の問題行動・不登校等諸課題に関する調査」、横浜市は「神奈川県児童・生徒の問題行動等調査」、泉区は「横浜市統計」。

コラム 生活困窮者自立支援制度

生活困窮者自立支援制度は、経済的困窮の最後のセーフティネットである生活保護に至る前の、いわゆる「第2のセーフティネット」として、平成27年度にスタートしました。令和2年以降、新型コロナウイルスの影響で急増した経済的困窮の相談を受け止めたのが、この制度です。

制度の特徴は、課題を整理し相談者と共に自立に向けたプランを考えるなど、相談者自身での課題解決に寄り添う「伴走型」の支援が中心であり、金銭的支援はごく一部であることです。

制度には、次のような支援メニューがあります。

- ご自身で仕事探しにくい方に、ハローワークとの連携による仕事探しの支援
- 生活費のやりくりがうまくいかない方への家計改善支援
- 失業して求職活動中の方の家賃を支援
- 様々なお困りごとを抱え込み孤立している方、社会とのつながりがない方（ひきこもりなど）への支援

また、お困りの方の中には、相談できる場所があることを知らなかったり、周りの人に話づらいなど、なかなか支援につながらないこともあります。生活困窮者自立支援制度では、ご本人だけでなく、ご家族や支援者からのご相談も受けています。秘密も厳守しますので、身近な地域にお困りの方がいらしたら、制度をご紹介しますと大きなサポートになります。



重点項目3：一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える

個人の困りごとは、地域住民全体にも起こりうることです。地域・関係機関・行政が様々な困りごとを抱えた方を支援していく中で、当事者の声から課題の解決を考え、新たに支援するサービスを創出することで、地域で支えあいながら誰もが住みやすいまちづくりが実現できるように取り組みます。

行動計画

1 地域課題の抽出と課題解決に向けた取組の検討
(1) 地域特性および多様な個別ニーズの分析を基にした生活支援体制の構築を進めます。
(2) 多様な主体と連携し、日常の困りごとに対する支援を充実させます。
(3) 地域子育て支援拠点、区役所が子育て世代の当事者の声を拾い、地域ニーズを分析し、課題解決に向けた取組を地域活動者とともに検討します。

評価指標	現状値
地域課題の抽出と課題解決に向けた取組数	137回
主な内訳	
・地域ケア会議の開催回数 ・泉サポートプロジェクトとしての取組数 ・子育て支援連絡会・エリア会議の開催回数 など	

関連データ：【参考】資料編 P73 2-(1) 参照

コラム いわゆる「ごみ屋敷」問題

いわゆる「ごみ屋敷」問題は、「横浜市建築物等における不良な生活環境の解消及び発生の防止を図るための支援及び措置に関する条例」で支援等について定められています。

ごみ屋敷状態になってしまう原因の多くは、病気など何らかの事情で、ごみの分別や排出が出来ず、誰にどう相談していいか分からなくなってしまうケースがほとんどです。ごみ屋敷状態の解消と再発防止には、これらの原因を取り除くための支援と、堆積者が支援を受け入れることができるよう、関係機関や周囲の人々と日頃から関係性を構築することが必要不可欠です。

必要な支援が届くように、区役所関係各課や地域ケアプラザ等と連携し、相談しやすい仕組みを整えて、問題を抱えている方に寄り添いながら、ごみ屋敷状態の解消と再発防止に向けた支援を行ってまいります。

コラム 泉サポートプロジェクト(サポプロ)

泉区内の福祉施設や企業等が連携し、地域貢献の一環として、地域活動の支援や困りごとを解決する取組です。現在約60団体以上がサポプロに参加しており、福祉施設や医療機関、企業、薬局など、構成メンバーは多岐にわたっています。

これまでも地域住民との話し合いや連携の中から多くの取組が生まれました。施設の車両の空き時間を利用した食事会や高齢者サロンへの送迎、施設の食堂や会議室などのスペースの貸し出し、専門知識を持った人材のサロン等への講師派遣など、さまざまな取組が行われています。施設や企業等ができる範囲で無理なく取り組むことが、サポプロ全体のポリシーとなっています。現在は広く区民に知っていただけるよう、ホームページやSNSを活用した広報活動に力を入れています。



サポプロでは「誰もが安心して暮らし、助け合えるまちづくり」を目指し、今後さらに地域へ貢献していくことができるよう、多様な主体の連携を進めています。



ホームページはこちら!

コラム 地域ケア会議

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まいを中心に医療・介護・介護予防・生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を推進しています。その取組のひとつとして、「地域ケア会議」があります。

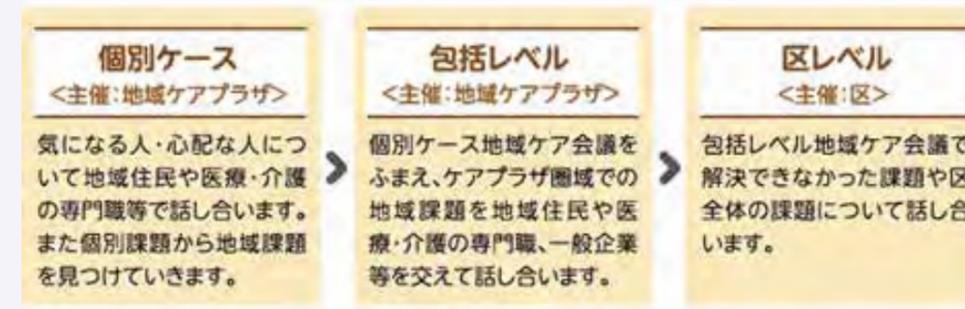
地域ケア会議は、地域で暮らす高齢者が、介護等が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるために、地域の支え合い（ケア）について、みんなで話し合う会議です。

参加者は、本人や、家族、保健・医療・福祉の専門職や地域の支援者等です。

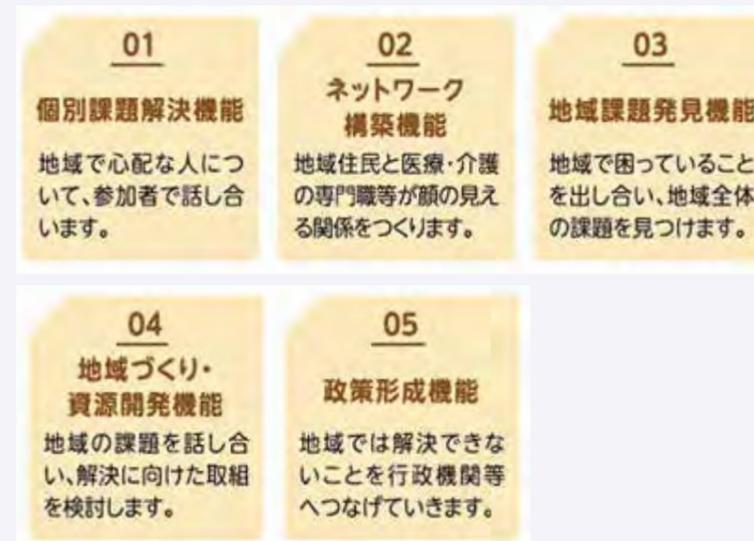
地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤との整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法とされており、次の5つの機能があります。目的や機能に応じて、泉区では、3つの会議を開催しています。



▶ 泉区内での3つの地域ケア会議



▶ 5つの機能



推進の柱 3

人と人、活動と活動がつながるまち

目指す姿

- あらゆる世代や、障害のある方、外国につながる方たちと交流する機会が増えて、お互いの理解が深まり、尊重される風土が育まれています。
- 様々な世代が地域活動やボランティア活動に参加し、地域全体につながりや支えあいの輪が広がっています。
- 地域活動の担い手が増えることで、既存の活動を継続できるとともに、多くの視点での取組が行われ、様々な地域課題の解決に向けて取り組むことができます。



重点項目1：多様性を理解し、つながる機会を作る

地域には、様々な世代や背景、立場、価値観を持つ方が住んでいます。こうした中で、身近な支えあいを実現するためには、多様性を理解し、交流できる機会を設け、互いに尊重しあえる地域づくりが求められます。多様性を理解するためには、高齢者や障害のある人など、支援を必要としている方について、正しい知識を周知していく必要があります。さらに居場所の充実やボランティアの機会の提供など、交流できる機会の創出を促します。

行動計画

1 サポートが必要な方々への理解の推進

- (1) 子どもへの福祉教育*の実施により、多様性への理解を深めます。
- (2) 認知症に関する正しい知識の普及啓発を行います。
- (3) 障害福祉事業所による自主製品販売等や啓発を通じ、障害児・者への理解を深めます。

2 様々な人との交流の推進

- (1) 障害のある方と地域住民の交流及び社会参加の促進を目的とした取組を支援します。
- (2) 身近な場所での交流の機会や居場所を充実させ、地域住民の社会参加を促進します。
- (3) 外国につながる方々と地域の交流を支援します。
- (4) 小中高生や保護者に対し、乳幼児や高齢者、障害児・者についての理解を進めるためのボランティアの機会を提供します。

*福祉教育…学校や地域でのボランティア体験・交流・出前授業等を通じて、高齢・障害等の当事者理解や身近な地域の福祉課題の理解を進める取組

評価指標	現状値
多様性を理解する機会の回数	42回
主な内訳	
・子ども等への福祉教育の実施回数 ・認知症キャラバンメイト*による認知症サポーター養成講座の実施回数 など	

*認知症キャラバンメイト…地域で暮らす認知症の人や家族を応援する「認知症サポーター」を育成する「認知症サポーター養成講座の講師役」

評価指標	現状値
交流を目的とした活動の実施箇所数	2,176箇所
主な内訳	
・障害児・者社会参加促進支援事業に参加した事業所数 ・サロン交流会、認知症カフェ、サービスB団体などの箇所数 ・地域の居場所づくりの実施箇所数 ・いずみサマースクールの実施に協力した団体数 など	

関連データ：【参考】資料編 P70 1-(2)～(6)、P74 2-(4) 参照



コラム いずみサマースクール

泉区では、区内在住・在学の子も達が福祉に対する関心を持つ機会や、地域の活動を知るきっかけづくりとして、毎年夏休み期間に小学4年生～高校3年生を対象とした福祉体験プログラムを行っています。子どもや障がいのある方、高齢者など、地域の方々と一緒に様々な活動をしています。



保育園や子育てサロン・親子の居場所等の「子ども分野」、障害福祉事業所や地域活動ホーム等の「障害分野」、デイサービスや特別養護老人ホーム・高齢者サロン等の「高齢分野」の3分野に分けて募集をかけています。毎年、多くの施設・団体にご協力いただき、多数のプログラムを提供しています。



昨年度より、「泉わくわく応援隊」の対象活動となり、グッズとプログラムの参加につき1ポイントのシールを修了者へお渡ししています。修了者の中には、ポイントシールを集めて枚数に応じた景品を受け取った子どもたちもいます。

こうした福祉体験を通じて、地域の人とふれ合うことや、個性を尊重しながら日々成長を感じ、寄り添って共に生活していくことの大切さと幸せを、子どもたちは学んでいます。



コラム いずみ多文化共生コーナー

泉区では、外国籍等区民が集住するいちょう団地地区のほか、各地域においても、外国籍等区民が生活しています。多様な文化を背景を持つ方々がお互いを尊重し、安心して住めるよう支援が必要です。

区役所1階には、身近な相談窓口となる「いずみ多文化共生コーナー」があります。ここでは、ゴミの分別方法や医療などの日常の生活情報を多言語で提供し、相談内容に応じて関係機関に紹介もおこなっています。

また、日本語に不慣れな外国籍等区民を対象とした日本語教室を開催し、日本語や日本の生活習慣等を学ぶことで、日常生活の中で地域住民とコミュニケーションが図れるよう支援しています。



(いずみ多文化共生コーナーの窓口開設時間)

- ・月曜日・火曜日・木曜日
- ※区役所の閉庁日を除きます。
- ・9:00～12:00、13:00～16:00

重点項目2：参加する人を増やす

身近な活動や交流の場などに参加することにより、孤立を防ぐとともに、自分の居場所や生きがいを見つけることにつながります。また、こうして生まれたつながりは、個人の変化や、地域の課題に気づき、互いに支えあうまちづくりにつながります。

子どもから高齢者まで、多くの区民が参加しやすく、魅力的な取組を充実させ、ICTなど様々な媒体で広く周知することにより、地域活動への興味関心を高め、参加する働きかけに取り組みます。

行動計画

1 地域活動に参加するきっかけづくり

- (1) 地域における子育て情報を発信します。
- (2) 地域の活動を周知するためのイベントを企画、開催します。
- (3) 地域活動への参加意欲向上のため、幅広い世代に向けて情報発信をします。
- (4) ICTを活用してより多くの方々に地域活動について周知します。
- (5) 地域活動におけるICTの活用を支援します。
- (6) これから地域活動を始める方向けの研修を実施します。

評価指標	現状値
地域活動への参加を促すイベント等への参加人数	1,558人
主な内訳	
・地域福祉保健計画推進イベントの参加人数 ・健康づくりイベントの参加人数 など	

関連データ：【参考】資料編 P73 2-(2)、(3) 参照



コラム 区内ボランティア団体「愛護会等」の取組

横浜市では、地域に身近な公園や河川、道路の管理を、地域や企業の皆さまを中心としたボランティア団体である「公園愛護会」「水辺愛護会」「ハマロード・サポーター」にご協力いただいています。

現在、泉区では128のボランティア団体が、公園・河川・道路の日常的な清掃や花植えなどの環境美化活動に取り組んでいます。

区民の皆さまが地域活動を身近に感じ、安心して参加できる環境を整え、参加を通じて充実感や成果を実感できるよう支援していきます。さらに、愛護会の活動紹介や技術講習会を実施し、幅広い世代に情報を発信することで、愛護会の認知度や技術力の向上、地域との新たな連携も促進していきます。

公園愛護会



水辺愛護会



ハマロードサポーター

コラム つながりが地域を元気にする!

～ソーシャルキャピタルのカ～

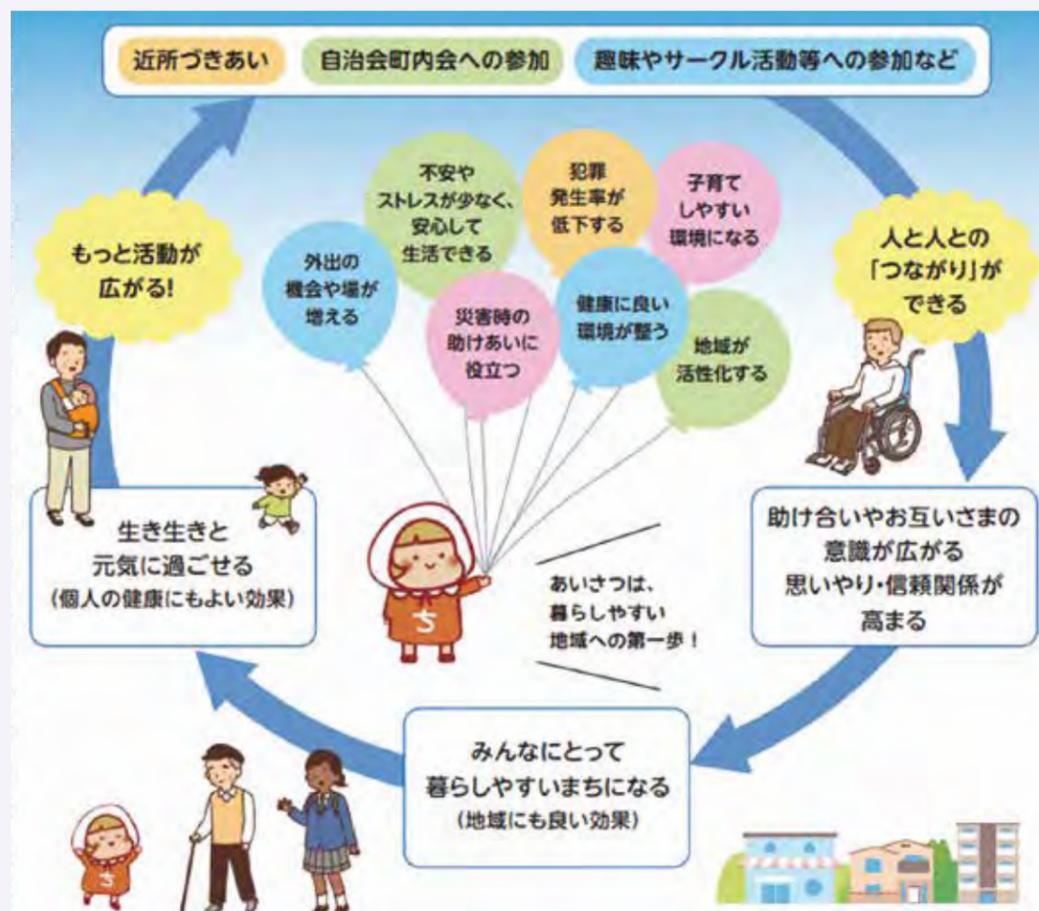
ソーシャルキャピタルって何?

私たちの暮らしを支えるのは、制度やサービスだけではなく。近所で声をかけ合う、困ったときに助け合う——こうした「人と人のつながり」が、地域を元気にする力になります。これをソーシャルキャピタル（社会関係資本）と呼びます。

「つながり」で自分も地域も健やかに

泉わくわくプランでは、こうした「人と人のつながり」づくりを推進しています。多世代交流や地域活動への参加は、孤立を防ぎ、自分の居場所や生きがいを見つけることにもつながり、心と体の健康にも効果があることも示されています。

また、一人ひとりが「つながり」をつくることで、助け合いやお互い様の意識が広まり、安心して暮らしやすい地域につながるなど、住んでいる人全体にも良い影響があります。



(出典：横浜市健康福祉局福祉保健課「自分も元気! 地域も元気! ~住む人もまちも元気になる だれもが活躍できるまちづくり~)

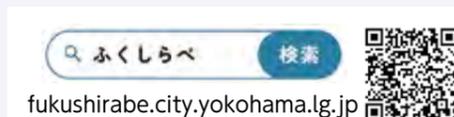
近隣の人々と挨拶を交わしてみる、身近な地域の活動に参加してみるなど、小さな一歩が地域全体の大きな力になります。あなたの「つながり」が、泉区をもっと元気にします。自分もまちも元気になるつながりづくりを、出来ることから始めてみませんか?

コラム 高齢期に必要な情報の発信

～高齢期の「自分らしい暮らし選び」を応援するサイト～

ポジティブエイジングを迎えるために
未来のあなたと家族を応援! 「ふくしらべ」

お住まいの地域を担当する地域ケアプラザを、住所から検索できます。地域活動の紹介記事やイベント情報など色々な情報が盛りだくさん! ぜひ、ご覧ください。



身近な地域の活動を検索!
ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ

横浜市では、主に高齢者を対象とした地域のサロンや趣味活動の場、日常生活のちょっとした困りごとをお手伝いする活動の情報などを検索できる「ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ」で身近な地域活動情報を公開しています。

地域活動（サロン、趣味活動の場、生活支援等）をお探しの方、地域の担い手として活躍したいと考えている方や高齢者を支援するケアマネジャーなど、幅広い方に活用いただけます。

サイトに掲載されている情報は、生活支援コーディネーター等が集めた情報を、活動・サービスの主催者の了解を得て掲載しています。



気軽におしゃべりしたり、趣味が楽しめる場所はないかな?



配食サービスって、私の地域でもやっているのかな?

体力維持できるように、気軽に体操できる場所はないかな?



重点項目3：担い手を増やす

地域には様々な活動があります。こうした活動により地域全体が活発化するために担い手を支える支援として相談対応や研修会の実施などに加え、活動団体同士の交流や事例共有できる場を提供するなど、様々な面から支援します。

また、地域活動を持続可能なものとするために、地域活動のお手伝いに気軽に参加できる機会を設け、新たな担い手の発掘につなげます。

行動計画

1 活動を継続していくための支援
(1) 地域の活動グループからの相談対応や助言、研修会の実施により、活動継続を支援します。
(2) 各種助成制度や実践的な技術を学ぶ研修等の実施により、地域活動を支援します。
(3) 各種活動団体の交流会の実施、事例等の共有、担い手同士の連携強化により、活動の継続に向けた支援を行います。
2 新たな担い手の発掘・育成
(1) 幅広い世代が気軽に取り組める地域活動の実施を支援します。
(2) 担い手として気軽に活動を始められるような講座を開催します。
(3) 多世代や多様な主体が担い手として地域に関わる取組を進めます。
(4) ニーズに合わせた活動を紹介します。

評価指標	現状値
地域主体の活動へ支援をした回数	16回
主な内訳	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動にコーディネーター（講師）派遣をした回数 ・社会福祉協議会の各部会・分科会での研修、情報交換の回数など 	
評価指標	現状値
地域活動の担い手を育成・発掘するための取組への参加人数	821人
主な内訳	
<ul style="list-style-type: none"> ・泉わくわく応援隊の参加人数 ・ボランティアセンターの新規登録人数（団体構成員数も含む） ・子育て応援サポーター養成講座の参加人数 など 	

関連データ：【参考】資料編 P72 1-(6)、(7)
P74 2-(4) 参照



コラム 泉区の地域活動

地域活動とは、まちをより良く、住みやすくするために住民が主体となって取り組む活動のことです。

具体的には、近所でのあいさつや声掛けなど個人でも出来ることから、同じ趣味や、福祉保健に関わること、ちょっとした困りごとを解決するボランティア活動、お祭りや防災訓練など団体で取り組むことまで様々です。

近所でのあいさつや、声掛けは困ったときに助け合える関係づくりや、困っている人の様子に気づき、孤立しないようにつながる、「見守り」や「支えあい」につながります。

防犯パトロールや防災訓練は、安心・安全なまちづくりに、お祭りなどのイベントは地域での交流を生み出し、顔見知りの関係が広がることで、災害時に助け合う仕組みづくりにつながります。ひとりひとりが出来る範囲で地域活動に参加することで、様々な活動が充実し、「互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉」の実現につながります。

上飯田団地地区「定期清掃 ～声をかけ合う関係づくり～」

上飯田団地地区は2024年9月現在で高齢化率が66.86%と横浜市の中で最も高齢化率の高い地区です。

一人暮らしの方も多く、日頃から声をかけ合い、孤立を防ぐ・異変に早期に気付く見守りの体制を大切にしており、定期清掃では「掃除は月1度大切にしよう『お元気ですか』のよい機会」を合言葉にして、顔を合わせ、あいさつを交わし、お互いの様子を確認し、ご近所との交流を深めています。



富士見が丘地区「高齢者ふれあい市場」

年に一回「一人暮らし高齢者忘年会」を開催してきましたが、コロナ禍により中止になりました。それに代えて、高齢者の方の外出機会と住民同士の交流を増やす取組として、町内6か所で移動販売を実施しています。民生委員が75歳以上の一人暮らしの方を訪問して開催の声掛けをし、当日は多数の参加者が、買い物だけでなく、近況報告など、いつまでも話が尽きない様子で交流する機会になっています。



下和泉地区「下和泉ハロウィン」

令和元年から、子ども達と多世代の交流が図られる取組として、「下和泉ハロウィン」を実施しています。町内会や地域ケアプラザ、歯科医院、子ども達の居場所づくり団体、子供会や放課後児童クラブなどの協力を得て開催しています。親子が地域を回ることによって下和泉地区に愛着を持ち、住民相互の絆を深めることを目的として、ボランティアの皆さんが交通安全の見守りに協力しています。



コラム 泉わくわく応援隊

泉区内の地域活動に子ども達がお手伝いとして参加することで、多世代間の交流を進め、地域活動の活性化を図ることを目的とした「泉わくわく応援隊」を令和6年度から展開しています。

区内の地域活動（お祭りなどのイベントブースや、清掃活動、敬老会のイベントブースなど）に参加してくれた子ども達に、隊員証や活動記録証、バンダナを渡します。

お手伝いに参加するごとに、主催者の地域の方からシールを渡してもらい、3枚集めるごとにプレゼントがもらえます。

活動の受け入れには連合自治会・町内会、地区社会福祉協議会をはじめ民生委員・児童委員やスポーツ推進員、青少年指導員など多くの地域の皆様のご協力を頂いています。



知らない人とも
楽しく関われる場所が
あってうれしい♪



多世代食堂のお手伝い

お手伝いをするだけで
喜んでくれる人がいて
やりがいを感じる♪



お祭りブースのお手伝い

この活動により、区民の方々が行う活動の支援や、参加した子ども達の社会性を高めるとともに、地域の方々と子どもたちがつながるきっかけを作り、防犯・防災などいざという時に支え合えるような地域づくりを目指します。

泉わくわく応援隊のHPはこちら



第4章 計画の推進体制

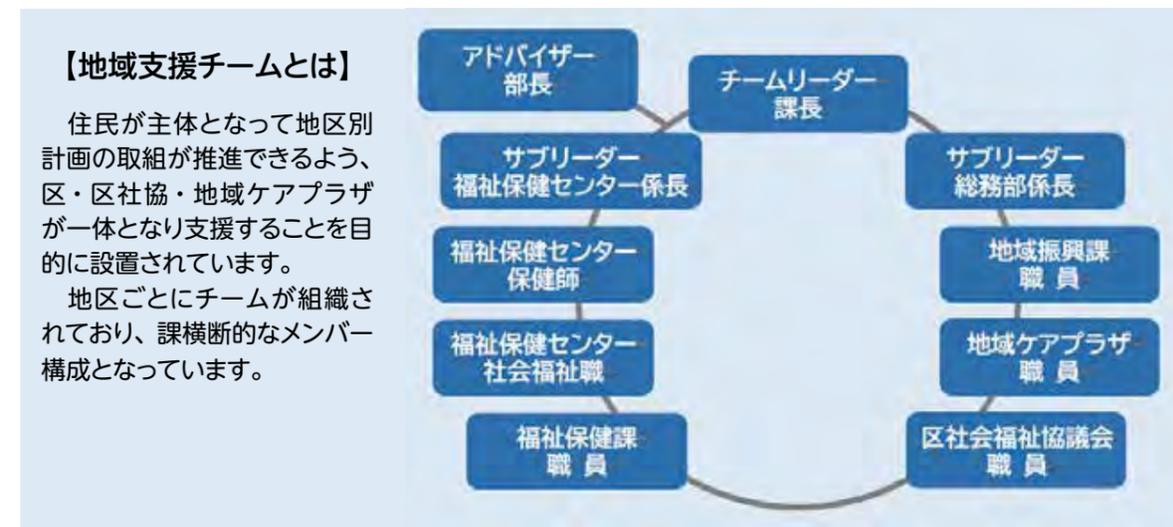
泉わくわくプランの推進にあたっては、その推進体制を整えると共に、課題の共有や解決に向けた取組を計画的に進め、振り返りを行い、基本理念の実現を目指します。

1 地区別計画

(1) 推進体制

地区ごとに地区社会福祉協議会や連合自治会・町内会等の地域の活動団体が中心となり取組を進めます。

計画の策定・推進にあたっては区役所・区社協・地域ケアプラザ職員により構成される「地域支援チーム」が協働しながら活動を支援していきます。



(2) 振り返り

地区別計画は、各地区の地区別計画推進組織が中心となって第5期計画の3年目に中間振り返りを行い、行動計画に生かします。

また、多くの人に地域福祉保健計画とその取組内容を知ってもらうきっかけとして広報よこはま泉区版の紙面を活用した地区別計画の取組紹介や、毎年「地域福祉保健計画推進イベント」や「活動発表会」の場で地域の活動団体の紹介や12地区の1年間の取組を発表していきます。

2 区計画

(1) 推進体制

泉わくわくプランの推進にあたっては、地区別計画推進組織、活動団体、関係機関等で構成される「泉区地域福祉保健推進協議会」（以下、協議会という。）において、計画全体の推進及び進行管理（振り返り）、活動情報の共有を行います。協議会は、12地区の代表と27の関係機関の委員で構成されており、区計画の進行状況の報告、地区別計画の進捗状況の共有を行うことで、区計画や地区別計画の活動の推進に生かしていきます。

第5期計画策定時においても、協議会で計画の方向性について話し合いを行うとともに、協議会の委員の代表者からなる「泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会」を組織し、分科会として計画の内容について協議を進めてきました。

(2) 振り返り

ア 計画の進め方

年度ごとに計画の行動計画及び取組に基づき、各事業において具体的な事業計画を作成し実行するとともに、その結果を点検し、次年度の事業計画へ反映させるPDCAサイクルの視点を持って取り組んでいきます。

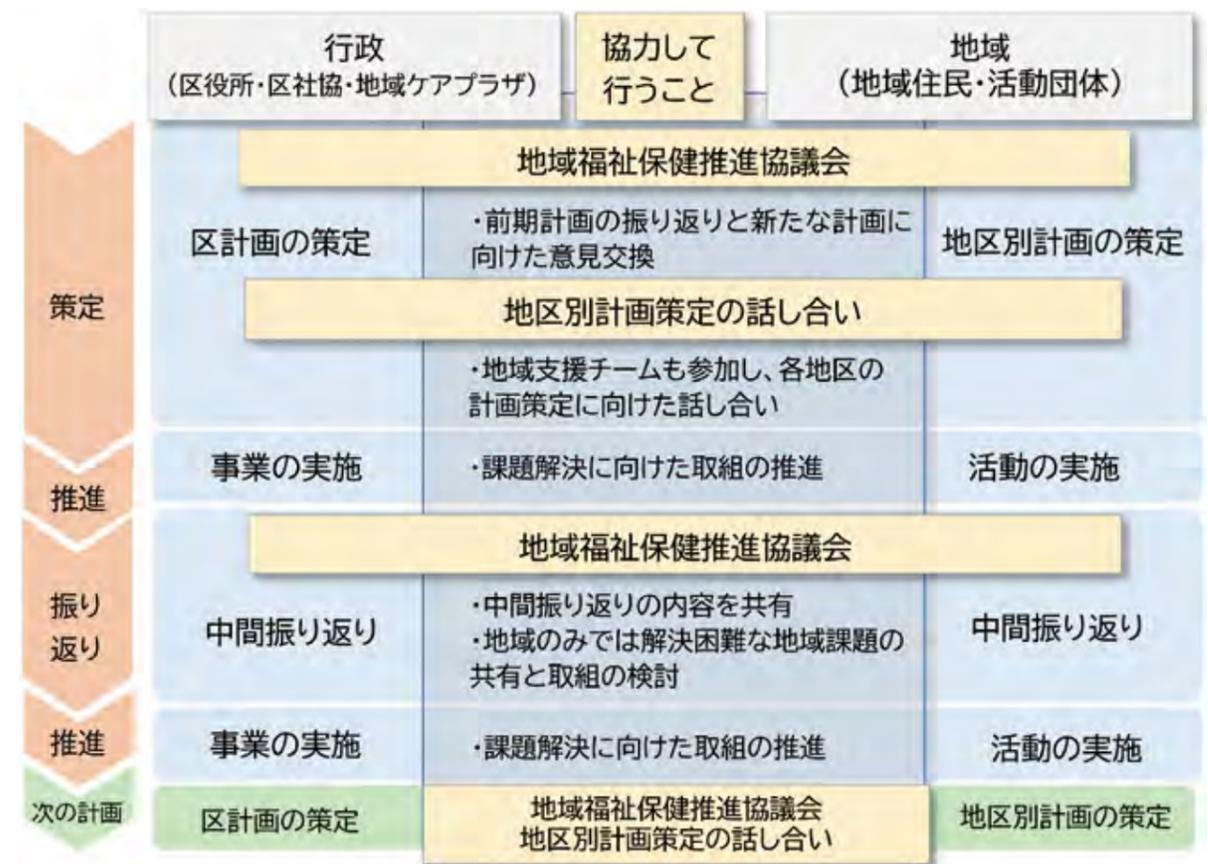
イ 評価指標

年度ごとの事業計画に基づく、計画の作成と点検に加え、推進によってどのような変化が生じたのかを、定量的に、把握するため、評価指標を定めています。評価にあたっては、事業計画に基づく、定性（質）と評価指標に基づく定量（量）の両面から総合的に推進状況を把握していきます。

ウ 振り返り時期

区計画全体としては、第5期計画の3年目にあたる令和10年度にこれまでの取組状況と残りの2年間を見据えた中間振り返りを行います。

また、計画の最終年度である令和12年度には、最終振り返りを行い、次期計画の策定に生かしていきます。



泉区地域福祉保健推進協議会団体一覧

地区・組織名	
中川地区社会福祉協議会	泉地域活動ホーム かがやき
緑園地区社会福祉協議会	泉区生活支援センター 芽生え
新橋地区社会福祉協議会	泉区障害福祉自立支援協議会
和泉北部地区社会福祉協議会	泉区地域子育て支援拠点 すきっぷ
和泉中央地区地域福祉保健計画活動推進委員会	泉区親と子のつどいの広場
下和泉地区社会福祉協議会	泉区保育園園長会
富士見が丘地区地域福祉保健計画推進委員会	横浜市幼稚園協会泉支部
上飯田地区住みよいまちづくり委員会	泉区主任児童委員連絡会
上飯田団地連合自治会	泉区食生活等改善推進委員会
いちょう団地地区社会福祉協議会	泉区保健活動推進委員会
中田地区地域福祉保健推進委員会	泉区食品衛生協会
しらゆり地区社会福祉協議会	泉区生活衛生協議会
泉区医師会	泉区ボランティアネットワーク
泉区歯科医師会	泉警察署
泉区薬剤師会	泉消防署
泉区獣医師会	泉区小学校長会
泉区訪問看護ステーション連絡会	泉区中学校長会
泉区在宅医療相談室	学識経験者（田園調布学園大学教授）
泉区民生委員児童委員協議会	泉区内地域ケアプラザ（7施設）
泉区老人福祉施設施設長研究会	泉区社会福祉協議会
泉区シニアクラブ連合会	泉区福祉保健センター

第5期泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会 委員名簿（令和6年度～）

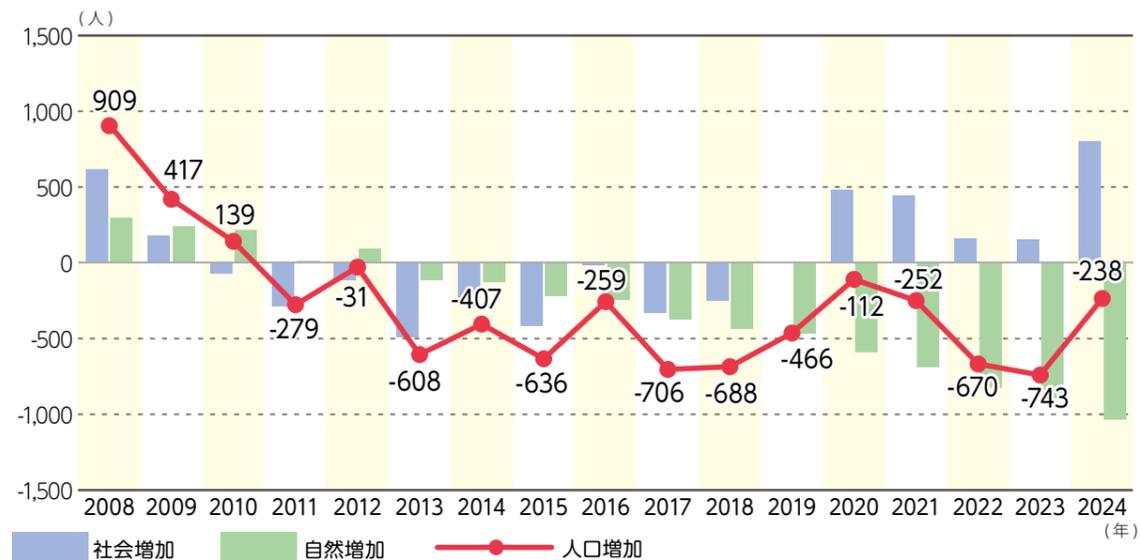
（敬称略）

地区・組織名	委員氏名
富士見が丘地区	八木 勇喜
下和泉地区	本杉 重行
上飯田団地地区	佐野 瞳
泉区医師会	金井 光 （～令和7年5月31日）
	渡邊 豊彦 （令和7年6月1日～）
泉区歯科医師会	石川 博之 （～令和7年6月30日）
	相庭 常人 （令和7年7月1日～）
泉区薬剤師会	勢登 祐志
泉区民生委員児童委員協議会	石井 マサ子
泉区老人福祉施設施設長研究会	倉本 恵造
泉地域活動ホーム かがやき	金子 恭己
泉区地域子育て支援拠点 すきっぷ	泉 直子 （～令和7年3月31日）
	田中 まゆみ （令和7年4月1日～）
泉区主任児童委員連絡会	細谷 幸子
泉区保健活動推進委員会	武関 いと子
泉区ボランティアネットワーク	中嶋 光代
田園調布学園大学	村井 祐一
泉区福祉保健センター長	羽田 政直 （～令和7年3月31日）
	瀧澤 朋之 （令和7年4月1日～）
泉区福祉保健センター担当部長	柿沼 浩二 （～令和7年3月31日）
	小畑 真子 （令和7年4月1日～11月13日）
泉区社会福祉協議会	貝沼 貞夫

① データでみる泉区の状況

(1) 人口や高齢化率について

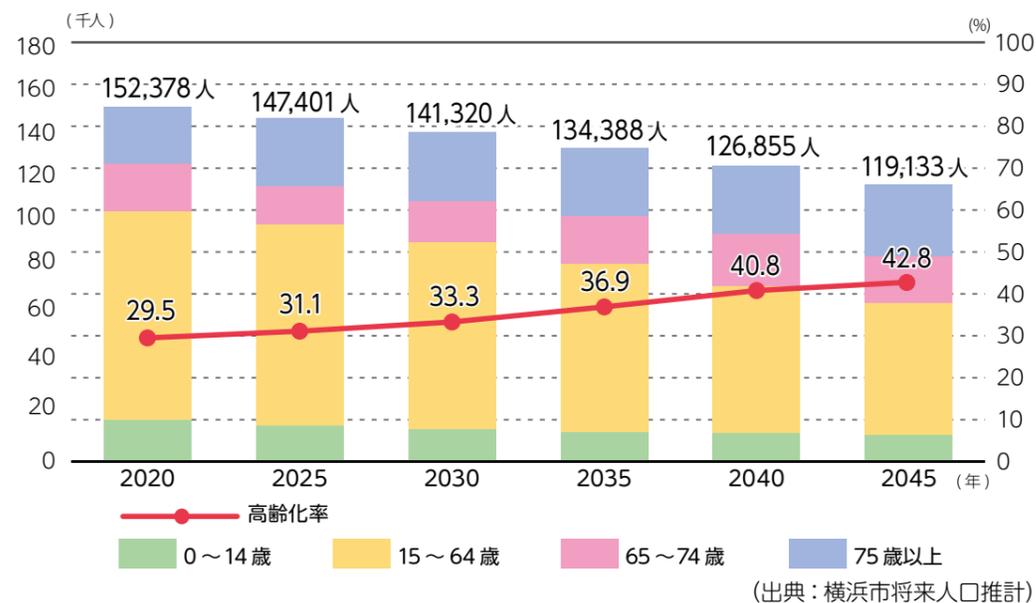
● 人口動態



※社会増加数=転入数-転出数+その他増減
自然増加数=出生数-死亡数
(出典：横浜市統計情報ポータルサイト)

泉区では近年人口減少が進んでいます。2008年以降、人口増加が鈍化し、2011年以降人口減少に転じました。2019年以降は、社会増加数は増加に転じていますが、自然減少が社会増加を上回っており人口減少は続いています。

● 泉区の人口推計と高齢化率 (2020年時点を基準・2025年以降は推計)



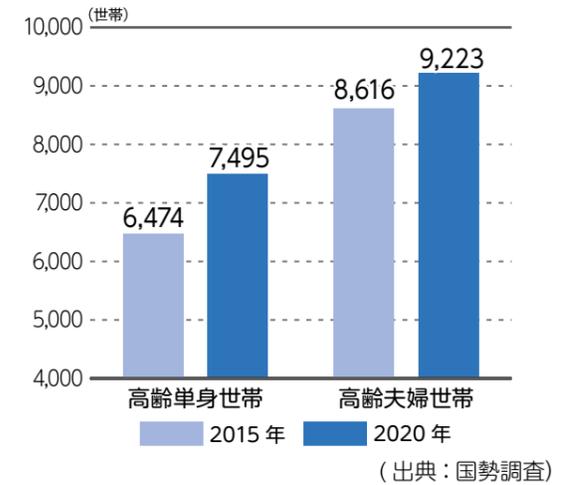
(出典：横浜市将来人口推計)

横浜市将来人口推計によると泉区の人口は緩やかに減少していきます。2025年の20年後の2045年には人口が2025年現在より2割減少すると予測されています。また、高齢化に伴って生産人口(15～64歳)が減少し、高齢化は2030年には33.3%(3人に1人)と推測されています。

(2) 高齢者

● 高齢単身世帯と高齢夫婦世帯の推移

65歳以上の高齢者夫婦のみ世帯及び高齢単身世帯が増加しています。高齢単身世帯は2015年から2020年の5年間で1,000世帯以上増加しており、日頃からの日常的な見守り等地域がつながりあって支えていくことが、いっそう重要です。

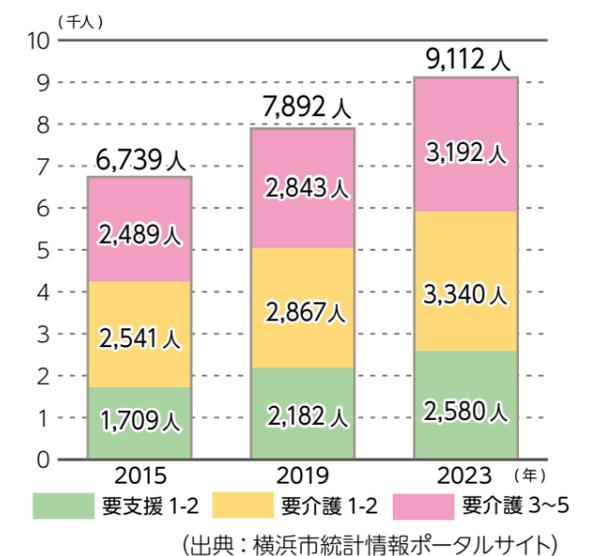


(出典：国勢調査)

● 泉区の介護保険認定者数の推移

(各年度末現在)

2023年度末時点で、泉区の介護保険認定者数は9,112人と5年間で1,220人増加しています。高齢者を支える仕組みづくりや、健康づくりや介護予防の取組を進めていくことが必要です。



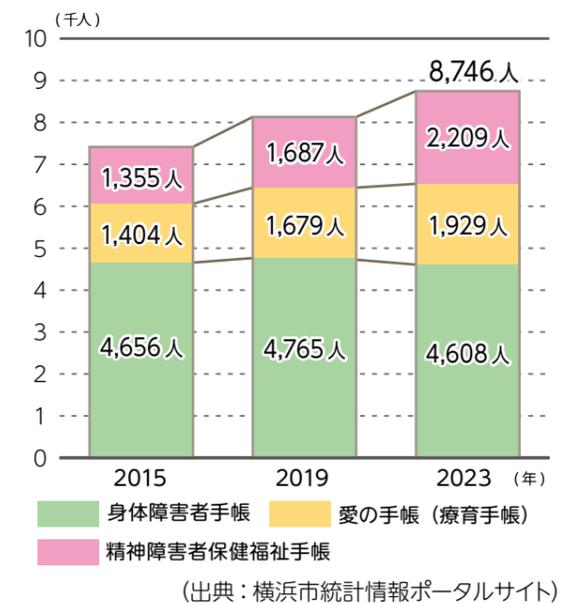
(出典：横浜市統計情報ポータルサイト)

(3) 障害者

● 泉区の障害者手帳所持者の推移

(各年度末現在)

2023年度末時点の泉区の各障害者手帳の所持者は8,746人(総人口の5.8%)です。身体障害者手帳所持者は横ばい、愛の手帳(療育手帳)所持者は微増の傾向、精神障害者保健福祉手帳所持者は増加傾向にあります。

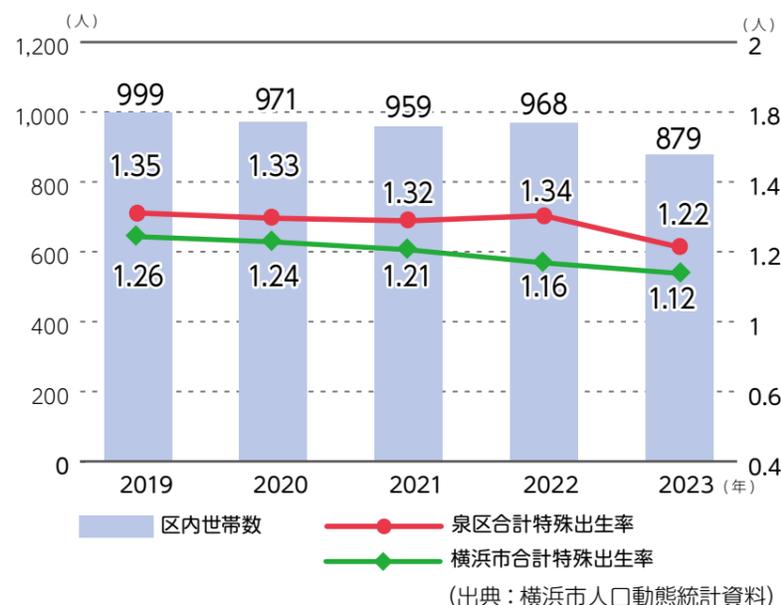


(出典：横浜市統計情報ポータルサイト)

(4) 子ども

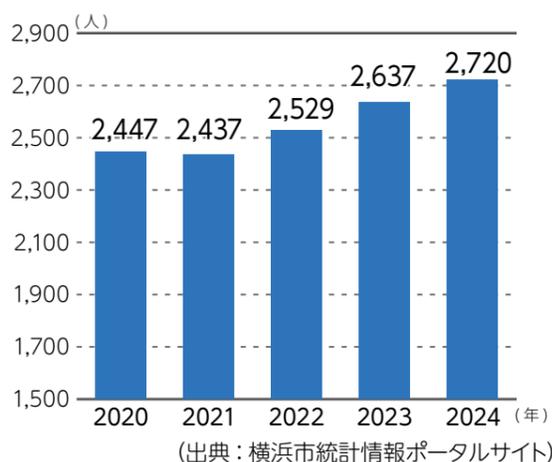
● 泉区出生数と合計特殊出生率の変化

出生数は年間 1,000 人より徐々に減ってきています。合計特殊出生率（15 歳から 49 歳までの女性が一生の間に生む子どもの数を推計した数値）は横浜市より高い数値で経過しています。

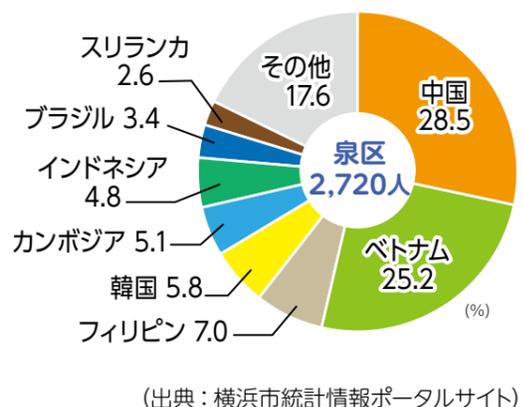


(5) 外国人

● 外国人人口の動向 (各年度末現在)



● 国籍別人口割合 (2025年3月31日現在)



泉区の外国人人口は横浜市全体と同様に増加傾向にあります。

泉区に住む外国人は 2024 年度末現在で中国（775 人）とベトナム（686 人）の 2 国で 53.7% と半分以上を占めています。

(6) 地域

● 泉区の自治会町内会加入世帯数・加入率の推移 (各年 4 月 1 日現在)

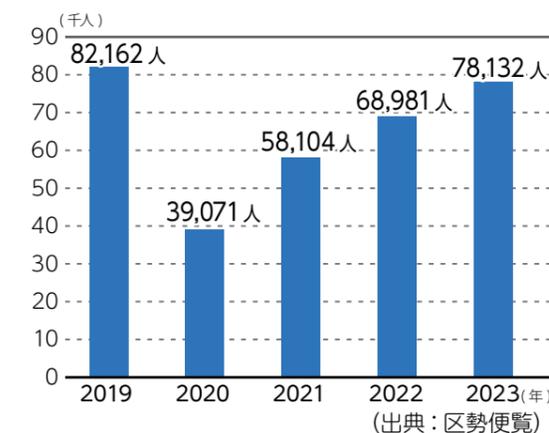


泉区の自治会町内会加入状況は令和 6 年 70.7%と年々減少傾向にありますが、横浜市平均（令和 6 年 66.7%）と比べ 4%高い水準で、泉区は 18 区中 5 番目に高い加入率となっています。

(7) 地域活動・ボランティアの活動状況

● 地域ケアプラザ (区内 7 施設) 利用者数の推移

泉区内の地域ケアプラザ利用者数は、コロナ禍の影響により 2020 年には前年度の利用実績より半減していましたが、徐々に回復しています。



● 泉ふれあい助成金配分団体や担い手・参加者の状況

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
助成団体数 (件)	170	161	137	135	140	141
担い手数 (人)	1,410	1,195	758	709	750	802
参加者数 (人)	67,987	28,263	34,092	52,551	55,000	57,131

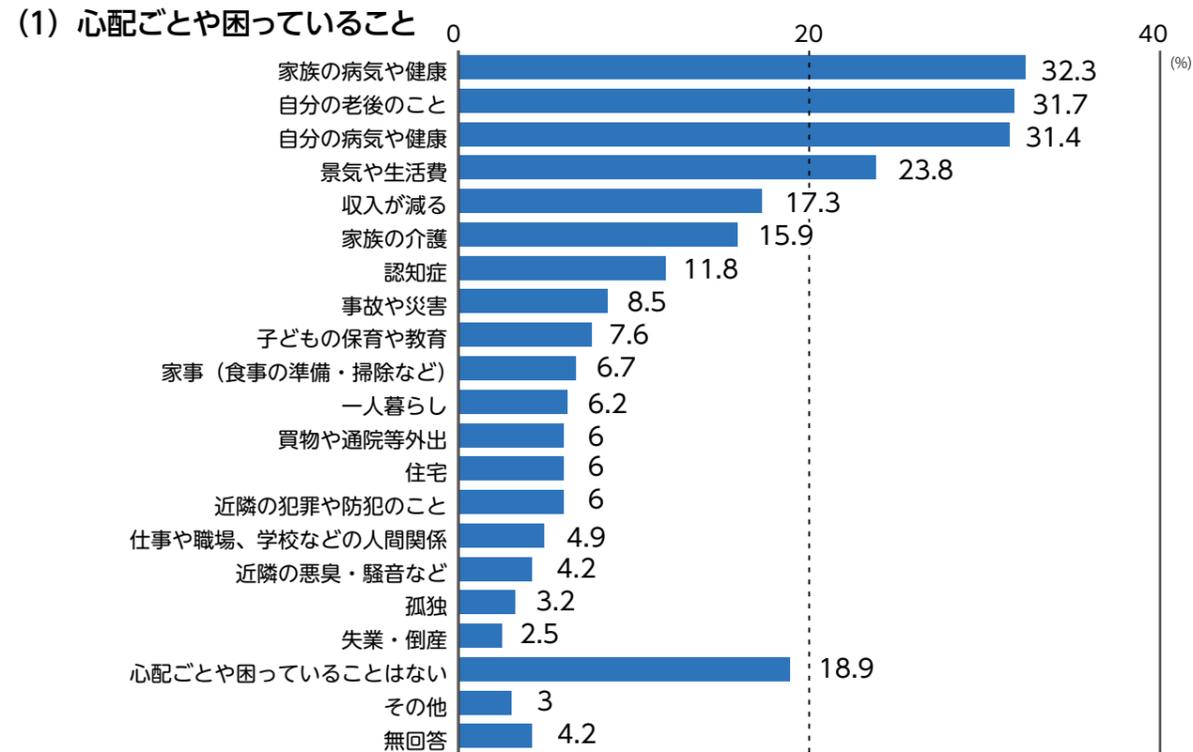
(出典：区社協事業報告)

区内の福祉保健活動団体を支援する泉ふれあい助成金配分団体の担い手数や活動への参加者数はコロナ禍で半減しましたが、徐々に増加してきており、コロナ禍を経て活動ができる体制が整いつつあることが伺えます。

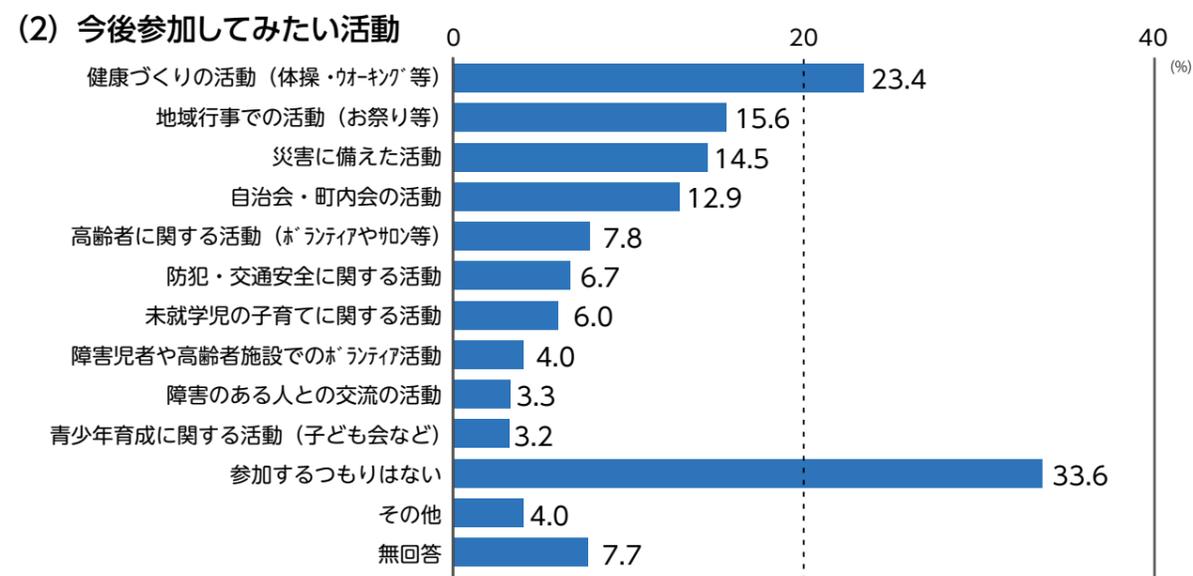
② 泉区のアンケート等より

令和6年度泉区区民意識調査 調査結果報告書より抜粋

令和6年7月に、泉区全域を対象に区政に対する考えや意見（生活意識、買い物行動、地域活動、福祉施策、広報・広聴等）についての区民意識調査を実施しました（対象3,000人、有効回答数1,781件）。地域福祉に関連する内容のうち、主な結果を紹介します。

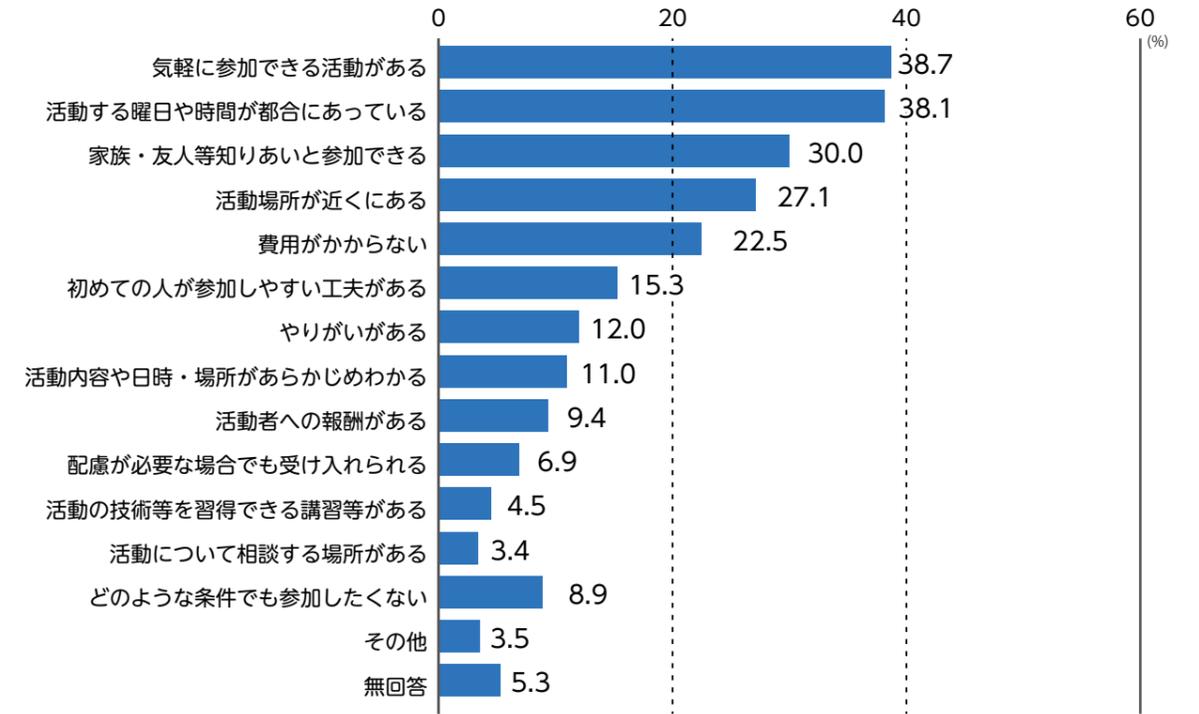


現在の心配ごとや困っていることは「家族の病気や健康」が最も多く、次いで「自分の老後のこと」「自分の病気や健康」が3割以上となっています。



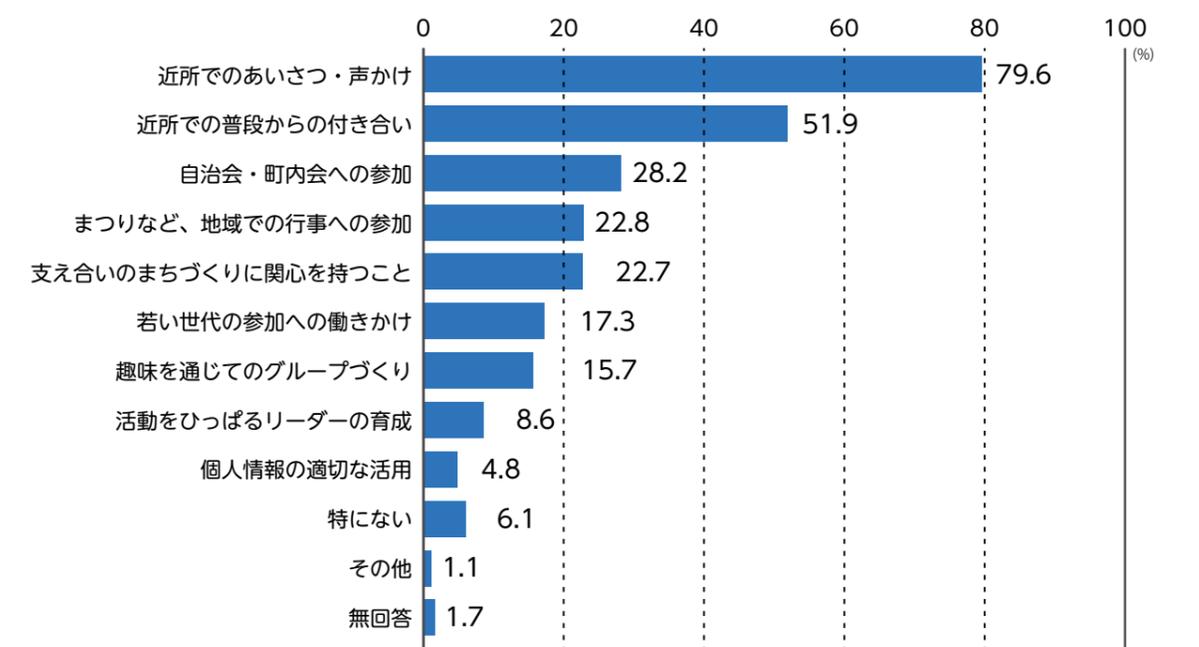
参加するつもりがないと答えた方が33.6%と1番多いものの、次いで「健康づくりの活動」「地域行事での活動」「災害に備えた活動」となり、健康づくりや防災への取組への興味関心が伺えます。

(3) 地域活動に、参加しやすくなる条件



「気軽に参加できる活動がある」「活動する曜日や時間が自分の都合にあっている」を挙げた方が3割を超えており、次いで「家族・知人など知っている人と参加できる」が挙がっています。

(4) 地域で「身近な支え合いの関係」を築いていくために必要なこと



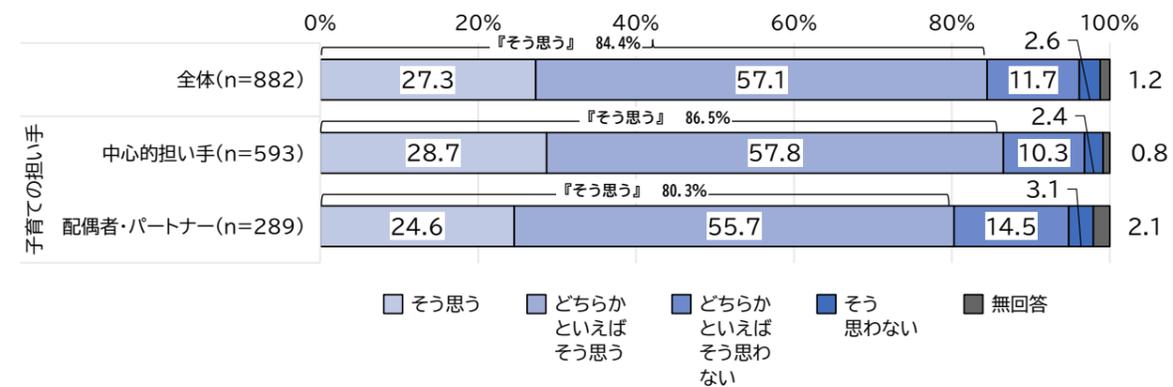
「近所でのあいさつ・声かけ」を約8割の人が挙げています。次いで「近所での普段からの付き合い」が挙がっており、近所での関係づくりに関する項目が上位2項目となっています。

泉区子育てに関するアンケート調査より

令和6年5月1日から9月30日に、泉区で0～3歳を育児している方の育児に関する意識調査を実施しました。有効回答数882件（調査A：子育てを中心に担っている方593人、調査B：子育てをサポートしているパートナーの方289人）。地域福祉に関連する内容の一部を紹介します。

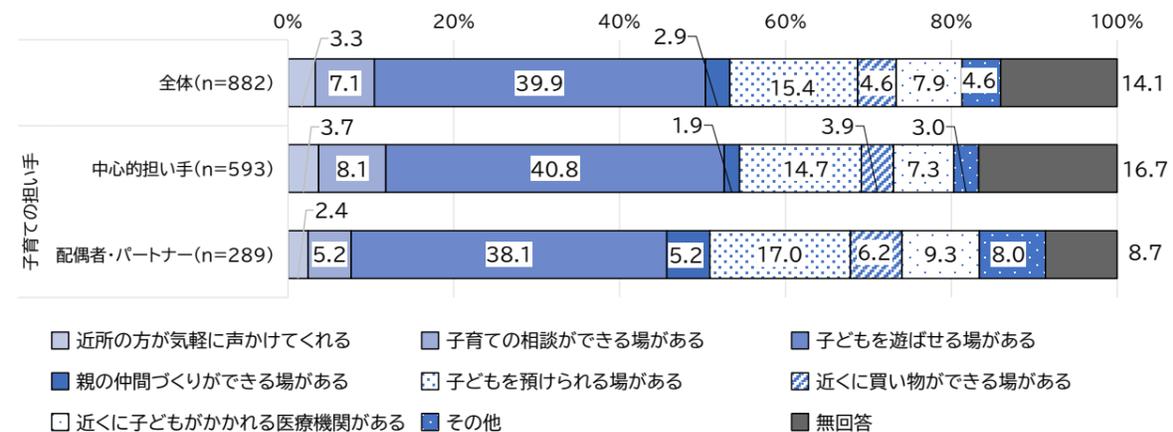
(5) 泉区が子育てしやすいまちだと感じますか？（〇はひとつ）

全体で見ると、「そう思う（そう思う+どちらかといえばそう思う）」が84.4%となっています。



(6) 「子育てしやすいまち」になるためには何があるといいですか？

全体で見ると「子供を遊ばせる場がある」が最も多く39.9%、次いで「子供を預けられる場がある」が15.4%となっています。





2026年は泉区制40周年

地域ケアプラザ

福祉・保健の相談、地域活動やボランティアの支援、活動場所の提供や、高齢者の相談・支援など誰もが安心して暮らせる地域を作るための拠点です。

地域ケアプラザの
紹介ページはこちら
泉区ホームページ



連絡先	電話
上飯田地域ケアプラザ	045-802-8200
下和泉地域ケアプラザ	045-802-9920
踊場地域ケアプラザ	045-801-2920
いずみ中央地域ケアプラザ	045-805-1700
新橋地域ケアプラザ	045-813-3877
いずみ野地域ケアプラザ	045-800-0322
岡津地域ケアプラザ	045-812-0685

事務局・問合せ先

泉区役所 福祉保健課

横浜市泉区和泉中央北5-1-1

電話 045-800-2433

FAX 045-800-2516

メール iz-chifuku@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市泉区社会福祉協議会

横浜市泉区和泉中央南5-4-13

電話 045-802-2150

FAX 045-804-6042

メール info-izumi@yokohamashakyo.jp

